

週刊

GAINAX総監修ビジュアル・ガイドブック

新訂版

EVANGELION

エヴァンゲリオン・クロニクル

05

定価 **690**円(税込)
2010/3/9

Mechanic Sheet

第14使徒ゼルエル

国連軍兵器

Character Sheet

赤木リツコ **A**

Tactics Sheet

ヤシマ作戦

Timeline Sheet

転校生

Installation Sheet

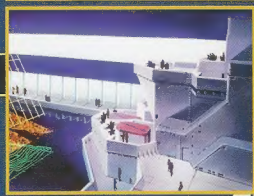
NERV **B**

Technology Sheet

A.T.フィールド

Extra Sheet

用語辞典 / 企画書 / トピックス



**特製バインダー
発売中!**

DEAGOSTINI

インターネットで
ダウンロードも可能 deagostini.jp

第14使徒



ゼルエル

ゼ



EVAを追い詰めた

最強の使徒



FOURTEENTH ANGEL

ZERUEL

第14使徒 ゼルエル
FOURTEENTH ANGEL ZERUEL

Special

18

FOURTEENTH ANGEL ZERUEL

Illustration by Hirofumi Ushikawa

戦闘に特化した力の使徒

人類とは別の生命の起源より生まれたとされる生命体、使徒。群体として存在するヒトとは異なる単一種であり、その能力や形態は多岐に渡る。その中で最も戦闘に長じた身体能力を備えたものがゼルエルだといえよう。その姿はサキエルやイスラフェルと同様、比較的に近い形を持つ。これら人間型の使徒は、胸に相当する部位を武器として用いるほか、光線を頭部（もしくは顔）らしき部位から発するという興味深い共通点を備えている。

ゼルエルは一撃でEVAを切り裂く刃胸と、サキエルが機能増幅の末に得たものと酷似した怪光線という、遠近両方の攻撃手段を持つ。その上EVAの兵器でも傷つかない強固な体表面を持ち、攻防両立した能力によって式号機と零号機を圧倒。まさしく、力を司るという天使の名に負いはない。

アダムとの接触を求めためか、使徒はNERV本部を狙って襲来する。その行動パターンを知るNERVは、第3新東京市という地の利を活かして使徒の侵攻を幾度もくい止めてきた。細菌サイズという特殊性を活かしてジオフロントに潜入したイロウルとは違い、ゼルエルは純粋な戦闘力のみでジオフロント中樞部へと侵入を果たす。

第3新東京市の防衛戦を突破し迅速に侵攻したゼルエルは、ジオフロント内の中央作戦司令室にまで攻め込むが、初号機との交戦で、暴走した同機によって捕食されてしまう。



ジオフロントでの迎撃を余儀なくされたEVA。ゼルエルは式号機と零号機の攻撃をもとめず侵攻し、NERV最深部へと迫った。



電源の切れた初号機を追い込むゼルエルだったが、暴走した同機に逆襲を受け、EVA2体を倒した力が彼のように蹂躞されてしまう。

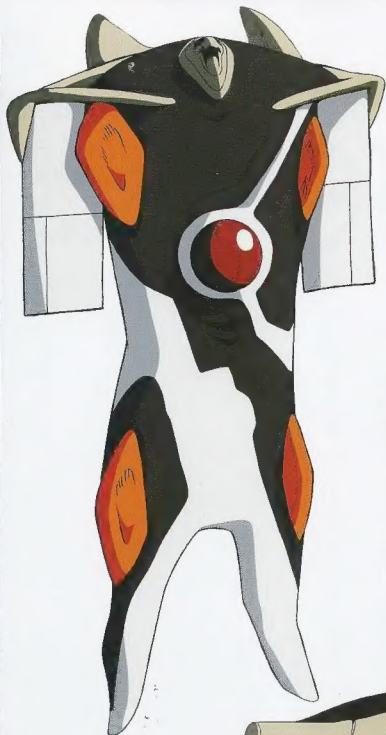
DATA

呼称：14th ANGEL
第14使徒

天使名：ZERUEL
ゼルエル

象徴：SYMBOL
力

能力：ABILITY
伸縮自在腕
怪光線



前面 FRONT



背面 BACK

A.T.フィールドは
中和しているはずなのに！
なんでやられないのよ！
(惣流・アスカ・ラングレー)

関連事項 RELATED ITEMS

- 第2次ジオフロント攻防戦
- 使徒
- S'機関
- 中央作戦司令室



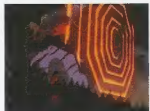
第2次ジオフロント攻防戦と連絡されたゼルエル機。EVA2体が活動不能に追い込まれたNERV最大の危機である。

ゼルエルの体構造

人間に近い形態ながらも、ヒトに準じた動作は行なわない。足に見える部位は歩行に適しておらず、通常は浮遊して移動。地面に降りた場合は両腕らしき部位も用い、四つん這いでないと歩行は難しいようだ。

1 強固な体表面

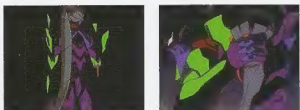
A.T.フィールドに頼らない鉄壁の防御力こそゼルエルの特徴といえる。式号機の用いた火器、バレットライフルの劣化ウラン弾とバズーカに使われているであろう成形炸薬弾は全く効かなかった。そのため体表面は高硬度であり、高い衝撃吸収能力と高温高圧への耐性を持つと推測される。



鉄壁を誇る体表面だったが、暴走した初号機にA.T.フィールドごとおろり切り裂かれてしまう。

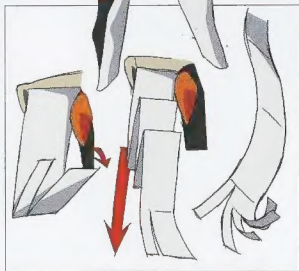
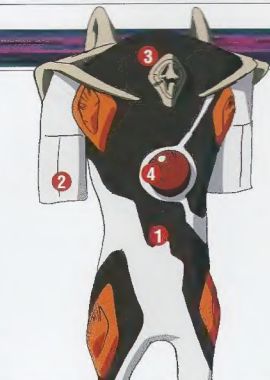
2 伸縮自在の両腕

腕と思われる部位は鋭利な刃であり、マニピュレーターとしての役割も果たす。肩甲骨のような部位が背部から通り出し、そこに板状の腕が備わっている。普段は縦文のように折り畳まれており、必要時に展開して使用。見た目以上の長さを持つ。



腕部分は鋭利な刃物として対象を切り裂くだけでなく、布状に巻いて対象物を覆ひこも可能。

千切られたゼルエルの左腕部分は、暴走した初号機によって腕部再生のための素材として使われてしまう。

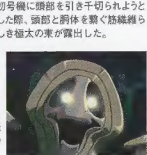


3 頭部と思しき部位

人間でいう首の付け根付近に、頭部(もしくは顔)らしき部位を持つ。体表面と同様に縦文で、リニアレールを押しつけた摩擦によっても一切ダメージは受けていなかった。



特殊装甲を一撃で16枚も貫く怪光線。一撃で8枚貫いたサキエルの怪光線の倍以上の威力を持つ。



初号機に頭部を引き千切られようとした際、頭部と胴体を繋ぐ接続線らしき種太の実が露出した。



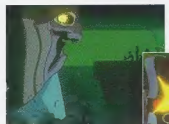
4 防護機構を持つコア

むき出しの状態で体のほぼ中央に位置するコア。弱点とはいえないが、見える火器では破壊できないほどの強度を持つ。その上、破壊の危険を感じずらいことや、まぶさのようなカバーによって隠し守られる仕組みとなっている。このカバー状の装甲は、M兵器の電距離爆発に耐え得る堅牢さを持つ。逆に考えると、カバーさえ機能しなければ少なからずダメージを負っていたことである。



ゼルエルの活動記録

駒ヶ岳防衛線より電撃的に襲来したゼルエル。その素早い侵攻にEVAによる第3新東京市での迎撃は間に合わず、ジオフロントへの侵入を許してしまう。その際に式号機と零号機は難なく撃破され、ゼルエルは中央作戦司令部にまで侵入を果たす。その直後、迎撃に出た初号機に侵攻を阻止され猛攻を受ける。しかし、電源切れて同機は活動を停止。反撃を開始するも、暴走した初号機によって蹂躞され、捕食された。



メインシャフトを発見したゼルエルは、中央作戦司令部の第1機令所にまで足を踏み入れた。



EVAの持つコアの存在を知っていたかのように頭部を破壊。露出したコアのみを鉄腕に握る。

ゼルエル侵攻記録

駒ヶ岳防衛線を突破

第3新東京市に到達

ジオフロントに侵入

式号機と交戦、大破させる

零号機の自爆攻撃を阻止、大破させる

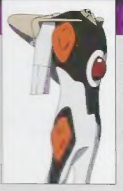
中央作戦司令部に侵入

メインシャフトを降下

初号機と交戦

暴走した初号機に捕食される

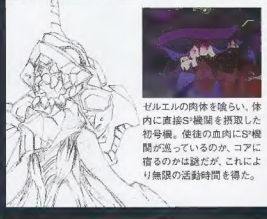
ゼルエル離脱



特記事項

初号機によるS²機関の摂取

依体の中でも最端と謳われるゼルエルだが、その類い稀な戦闘力とは別に特筆すべき事情が挙げられる。それは、初号機にS²機関をもたらした依体であること自体が事実だ。依体の能力の源である永久機関、赤リリツコの実によること、この動力源を持ち得たEVAは拘束具で抑えることはできず、ヒトの手ではもはや制御できないという。ゼルエルは、経緯はどうかあれ結果的にヒトへ生命の実を授けた墮天使といえるかもしれない。



ゼルエルの肉体を除いた、体内に直挿さる機関を摂取した初号機。食後の体内にS²機関が設置されているが、コアに電るのめは謎だが、これにより無限の活動期間を得た。



E計画を
司る



NERV



赤木リツコ

RITSUKO AKAGI

理知的かつ
現実的な女性



個人情報

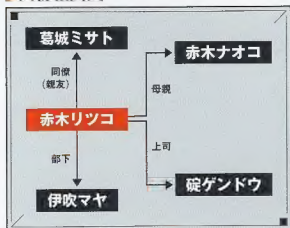
名前	赤木リツコ
年齢	30歳
国籍	日本
生年月日	B.D. 1985/11/21
血液型	B型
所属	NERV/技術開発部技術局一課

学位の最高位である博士号を取得している才女であり、E計画責任者としてEVAの開発に携わると共にスーパーコンピュータMAGIの運営、管理を任せられているNERV本部技術開発部技術局一課所属の科学者——それが、赤木リツコである。

第2東京大学を卒業した後、研究機関ゲルニオンに所属することとなったリツコは、そこでE計画セクションに配属される。母、赤木ナオコ博士と同様に明晰な頭脳を誇っていた彼女は、ゲルニオン内部において頭角を現わし、やがてEVA開発作業の中心人物となる。さらにゲルニオン解体後、NERVに籍を移してからE計画を担当し続けると共に、すでに故人となった母が基礎理論を構築したMAGIの運営、管理を担当することとなった。なお、その任務の性質上、碓ゲンドウとは秘密裏に接触をしている様子が見受けられ、一部の極秘事項にも通じている。

15年来の使徒襲撃の日、リツコは初めてNERVを訪れた操縦適格者の碓ジンジに、EVA初号機に乗ることを——例え何も知らない少年であろうと、他に乗れる人間がいらないならば当然——といった風に躊躇無く命令する。一見無茶に映るものの判断も、彼女にとってみれば妥当な選択肢のひとつにすぎなかった(ゲンドウ、冬月と同様に、「EVAの暴走」による決着を視野に入れていたかは不明だが)。その後もリツコの、科学者らしい論理的な思考が展開される場面が多数見受けられる。NERVの中核を担うブレインともいえる存在である彼女には、常に現状を見据える冷静さが求められているのである。

人物相関図



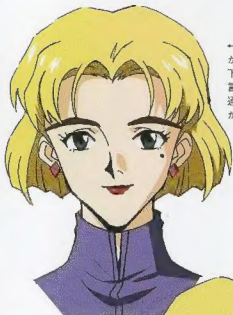
関連用語

- MAGI
- 葛城ミサト
- 赤木ナオコ
- 伊吹マヤ
- NERV



NERV本部の全システムを制御する、メルキオール、バルタザール、カスパーの基からなるスーパーコンピュータ。

表情

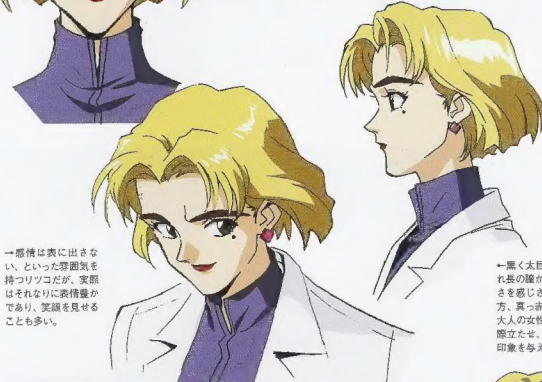


→リツコの顔を正面から見ると、左目の下、眉尻リョウジが冴るところの「下涙の通り道」にあるクワ口が非常に印象に残る。

→感情は表に出さない、といった雰囲気を持つリツコだが、笑顔はそれなりに表情豊かであり、笑顔を見せることも多い。



→こうした表情で、EVA号機の再起動実験に臨むリツコ。画面中の彼女の表情からは、無敵な感情は読み取れない。



→黒く大目の眉や切れ長の瞳が威圧の強さを惹き立てる。一方、冴った赤い口紅が大人の女性らしさを際立たせ、色っぽい印象を与える。

制服

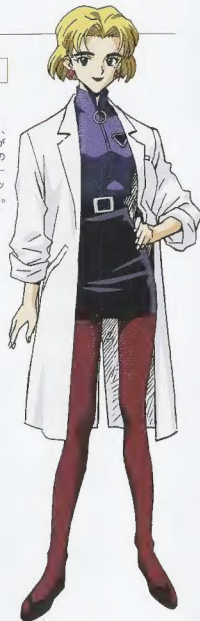
背面



側面

正面

→白衣の下の制服は、青系のカラーリングがなされたハイネックのシャツとタイトスカート。また、常にストッキングを着用している。



↑細身でバランスの良いスタイルの持ち主なのだが白衣を纏っているために、ほとんどがその下に隠れてしまう。

キャラクターシート

Character Sheet

赤木リツコ

Sheet

05

RITSUKO AKAGI A

赤木リツコ

という存在



→第3使徒襲来時、初号機の整備のためゲージ内のG.L.C.I.に落ちて作業していたリツコ。科学者というイメージにそぐわず活動的な一面もある。



→活動的なデザインながら、細部のディテールにこだわりが見られる私観。飾り気が少ないシンプルなものをお好むようだ。

冷静に状況を把握しうたえようが必要と判断したならば、目的のために手段は選ばない。また、無駄だと判断されるものは完全に省いていく。リツコの基本的な性質はそういった簡潔かつ論理的なもので、科学者らしいデータに基づいた思考の持ち主といえる。

科学者としての自分に高い矜持を持つためか、彼女は他人のみならず自分にも非常に厳しい。自分の失敗はすべて自分で拭おうとし、近しい人間に頼ろうとすることがない。これは、自らの能力に絶対的な自信を持つ彼女の「プライド」ゆえの行動であると共に、他人を信用することができないという感情の裏返しともされる。

仕事に関しては多少神経質なところも持ち合わせている反面、プライベートではそれなりにとつきやすい姿も見せる。ただ、非常に近い間柄である葛城ミサトに対しては、リツコは積極的な自分のことを語ろうとしない。自分自身に興味が無いためと受け取れるが、ここにも他人を信用することができないという感情が見え隠れしている。



MAGIが使えなくなった際、「私のミスから始まったことなのに」と口にしたリツコ。強い責任感と誇りが置かれた言葉だ。



ミサトの「ヤマアサシのジレンマ」について説明するリツコ。たとえ電話での連絡中であっても、リツコは冷静に状況を判断している。

理知的、現実的な思考を常とするリツコは、職務においては時に非情とも思える判断を下すことがある。その場の感情よりも、現実に沿って行動する彼女は、例えば操縦適格者たちの心理的な問題などにはあまり興味を示さない。結果、計画に支障が出ることを問題視するという、一面的で、徹底した合理主義者らしい部分を見せることもある。ただ、根拠ある論理ならば、冷静であろうともそれが正しい——そういった思考は、科学者としては当然ともいえる。その思考は、NERV内の科学者という位置にある彼女が、感情を挟む余地のない重要な任務をこなしていくうちに培われていったものと推察される。

理知的

な性格の影響

E計画

責任者としての姿勢



日本重化学工業共同体によるJ.A.発表の際、相手側のEVAを露す発言の数々に、リツコは猛反発する。



EVAを捨ててかのようなミサトの作戦に抗議をするリツコ。ミサトも初音を失って、許し難い作戦だった。

E計画の中心人物であるリツコは、EVAの起動実験、接続実験などの際には必ず中心となって指揮を執っている。実験の際には問題が発生するとも少なくはないが、その度に彼女の的確な判断も手伝い、何とか事無きを得ている。彼女にとっては(あるいは彼女が知る極秘事項においては)、EVAはそう簡単に失つてよい存在ではないのである。科学者として尊敬する母も従事し、それを受け継いで自らが開発に深く関わったEVAは、彼女にとって自らの研究の成果そのものだといえる。E計画責任者の地位に就いているというところは、彼女の科学者としての自信であり、また、誇りとなっているようだ。

MAGI
管理者
としての姿勢

ジレンマを説いたMAGIに対して懸念をつくり出す。科学者としてではなく、娘としての想いが垣間見える。



高データなどをともに、自らの手でMAGIを守り抜こうとするリツコ。彼女が立ち上げた数少ない戦隊だ。

NERV本部中央戦術司令部に位置し、その全システムを制御するスーパーコンピュータであり、EVAのサポートコンピュータでもあるMAGI。さらにMAGIは、第3新東京市の市政にまで利用されており、NERVだけではなく一都市の命運を左右するそのシステムの運用、管理をリツコは一任されている。このMAGIは、母親であるナオコによって開発された人格移植OSの第一号でもある。母をあまり好きではなかった、と言うリツコだが、使徒に侵食を許した際には、その手でMAGIを守りきっている。その行為には、重要な装置を守るうとする科学者としてだけでなく、娘としての思いもあったのではないかとと思われる。



船乗りリョウジによる使徒機動作戦を特参したリツコ。彼女がいなければ、ミサトはそれを素直に受け取れなかっただろう。

NERV戦術作戦部作戦局第一課に所属する作戦本部長、葛城ミサトとは、第2東京大学で知り合い以来の友人である。NERV内でもお互いEVAに深く関わる身として、密接な関係を持つ同僚だ。理論的で神経質なリツコと、感情的で大雑把なミサトとは、仕事上では意見の食い違いもしばしば見られ、時に衝突することもある。しかし、基本的にはお互い気のおけない親友であり、お互いの自らにはない部分に助けられることも多々ある。あまり他人に気を許すことのないリツコにとって、プライベートでの付き合いもよしとする友人は、数少ない貴重な存在であるといえるだろう。

葛城
ミサト
との関係伊吹マヤ
との関係

オペレーターは誰かいるのだが、リツコから直接の命令を受けるのは、大抵の場合はマヤである。



職務に忙殺され、洗濯してから通勤する人。こういった機会には、日常の会話を交わすこともある。

NERV本部技術局一課に所属するオペレーターである伊吹マヤ二尉。彼女はリツコに対して、先輩として、またひとりの女性として、深い尊敬の念を抱いている。リツコ直属の部下であり、彼女から先端技術を直に学んでいるマヤは、優秀なプログラマーでもある。使徒によりMAGIがハッキングを受けた際には、使徒の自滅促進（実質的には使徒殲滅と同義）プログラム作成にも参加しているほどだ。土壇場に置かれたリツコが「信頼できる」と判断するだけの技術を持つ存在は、いかに人材豊富なNERV内とはいえ、そうはいない。その意味でマヤは、リツコの仕事には欠かせない存在であるといえよう。

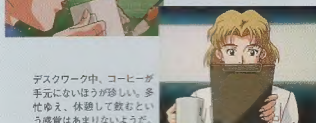
特記事項

嗜好品へのこだわりの意味

かなりのヘビースモーカーで、また、コーヒーも好むリツコ。NERV内のデスクの灰皿は、いつも彼女の研削で一杯にされているし、仕事中にコーヒーを飲む姿も数限りなく目撃されている。また、ミサトと居るときの飲み会もよくあるが、それはほぼ頻発ではないようだ。コーヒーに含まれるカフェインには、大脳皮質を興奮させ、疲労や疲労感を取り除いて集中力を上げる効能があり、煙草のニコチンもまた、心身の無駄な緊張を取り除く作用を持っている。精神的な復讐に曝され、並々大血集中力を得るNERVの科学者であるリツコにとって、それらは堪える嗜好品というだけでなく、彼女の仕事を支える要素となっているのではないだろうか。



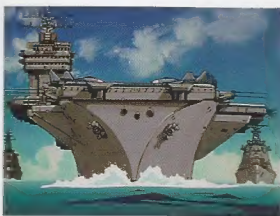
そう構装にはしていられない場面でも、リツコはコーヒーを飲む。彼女にとっての重要度が推し量られる。



デスクワーク中、コーヒーが杯元にはいはいはうが欲しい、多分冷め、体得て飲むという感覚はあまりないようだ。



仕事以外にも、煙草を吸うことが多いリツコ。ちなみに、どのような銘柄を好んでいるかは不明である。



国連軍兵器

UN 海上兵器

国連軍が保有する
太平洋艦隊

セカンドインパクトの後、再編成された国連軍に各国の軍隊が組み込まれた結果、以前には考えられない規模と多国籍性の高い軍隊が誕生。特に海軍はその傾向が顕著であり、太平洋艦隊では米国製の空母に旧ソ連製の艦載機という珍しい組み合わせが実現した。おそらく、ロシア太平洋艦隊と米国第7艦隊(母港は日本の横須賀)を中核にして編成されたものであろう。なお、EVA式号機の輸送に投入された艦隊は空母5隻、戦艦4隻、イージス艦も多数有する大艦隊だが艦艇は老朽艦といえる代物であった。

国連海軍の太平洋艦隊は、式号機とその操縦者、惣流・アスカ・ラングレーの輸送任務に就く。ドイツのヴァルヘルムスハーフェンから日本の新横須賀までの行程中、旧伊東沖で第6使徒ガギエルが襲来。如何に大艦隊といえども使徒に対しては無力であり、交戦の結果、国連海軍艦艇の1/3を失ってしまう。



国連色の鮮やかな空母の乗組員。国連軍の軍隊によって人種だけでなく、国籍も異なる兵士が多数採用される。

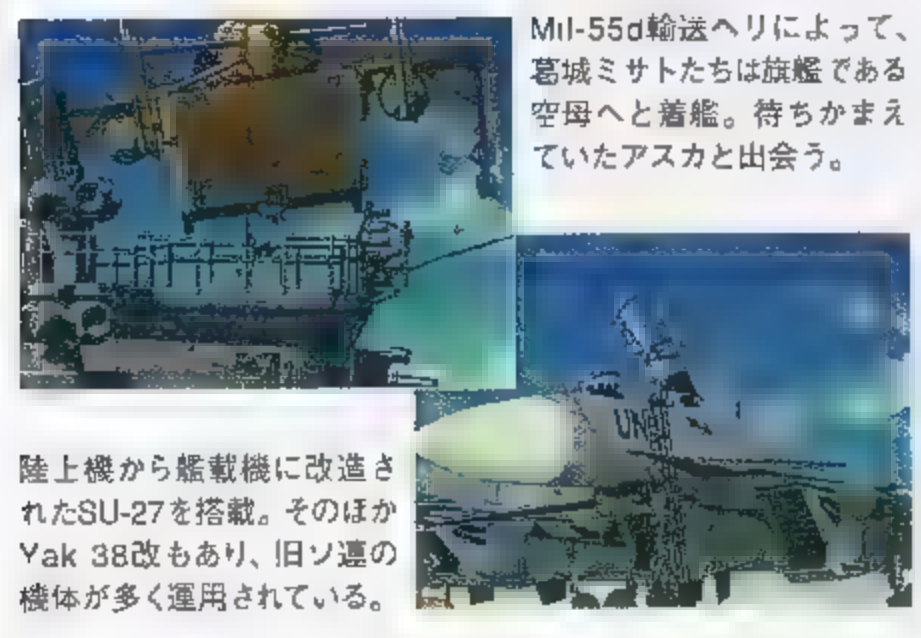
ガガエルに襲撃された艦隊は、魚雷で大打撃を受けた。



Naval Forces

空母

米国製の原子力空母ニミッツ級が太平洋艦隊の旗艦。国連軍に再編成されるにあたり、8番艦「ユナイテッド・ステイツ」を「オーバー・ザ・レインボウ」と改めている。332.9mの全長は東京タワーとほぼ同じ大きさであり、10万tもの排水量を誇る世界でも有数の巨大空母といえよう。なお、ニミッツ級は世界初の量産型原子力空母でもあり、アングルド・デッキやエンクローズド・パウ、蒸気カタパルトなど艦載機運用を追求した軍艦である。



Mil-55d輸送ヘリによって、葛城ミサトたちは旗艦である空母へと着艦。待ちかまえていたアスカと出会う。

陸上機から艦載機に改造されたSU-27を搭載。そのほかYak 38改もあり、旧ソ連の機体が多く運用されている。

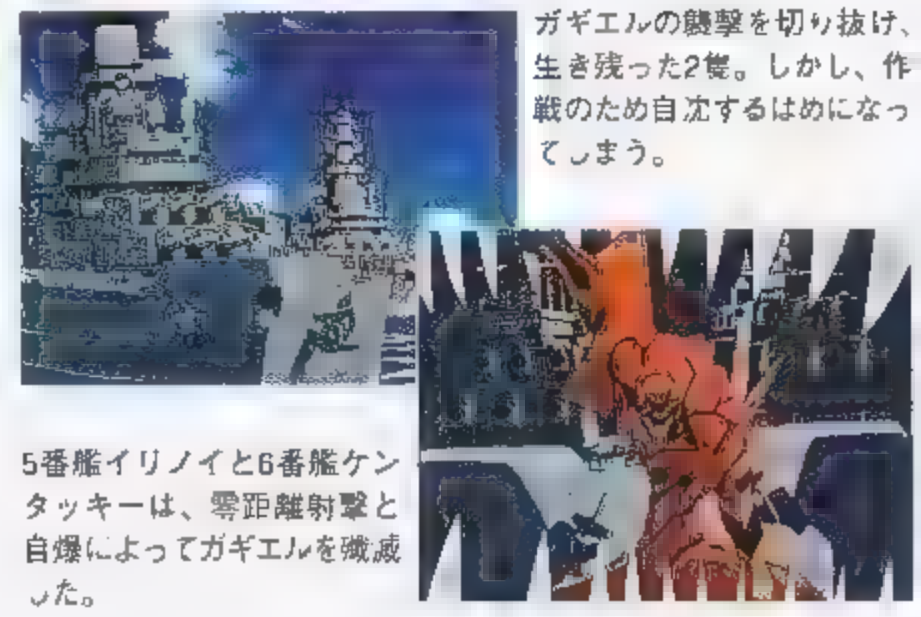
↓ブリッジ



十分な広さを持つブリッジ。空母に到着したミサトたちは、艦隊司令へ挨拶に訪れた。

戦艦

米国製のアイオワ級は50口径砲の打撃力と重装甲の防御力、大出力の速度を兼ね備えた巨艦である。全長は270.6m。運用には莫大な維持費を必要とするため平時は予備役などにまわされ、戦時のたびに復帰していた。第2次世界大戦までは海上戦力の主力だったが、現在では空母が海戦の主力である。太平洋艦隊に所属する戦艦はすでに老朽艦であり、数少ない現役艦なのであろう。なお、現代で戦艦とカテゴライズされる軍艦はすべて現役を退いている。



ガギエルの襲撃を切り抜け、生き残った2隻。しかし、作戦のため自沈するはめになってしまう。

5番艦イリノイと6番艦ケンタッキーは、零距離射撃と自爆によってガギエルを殲滅した。

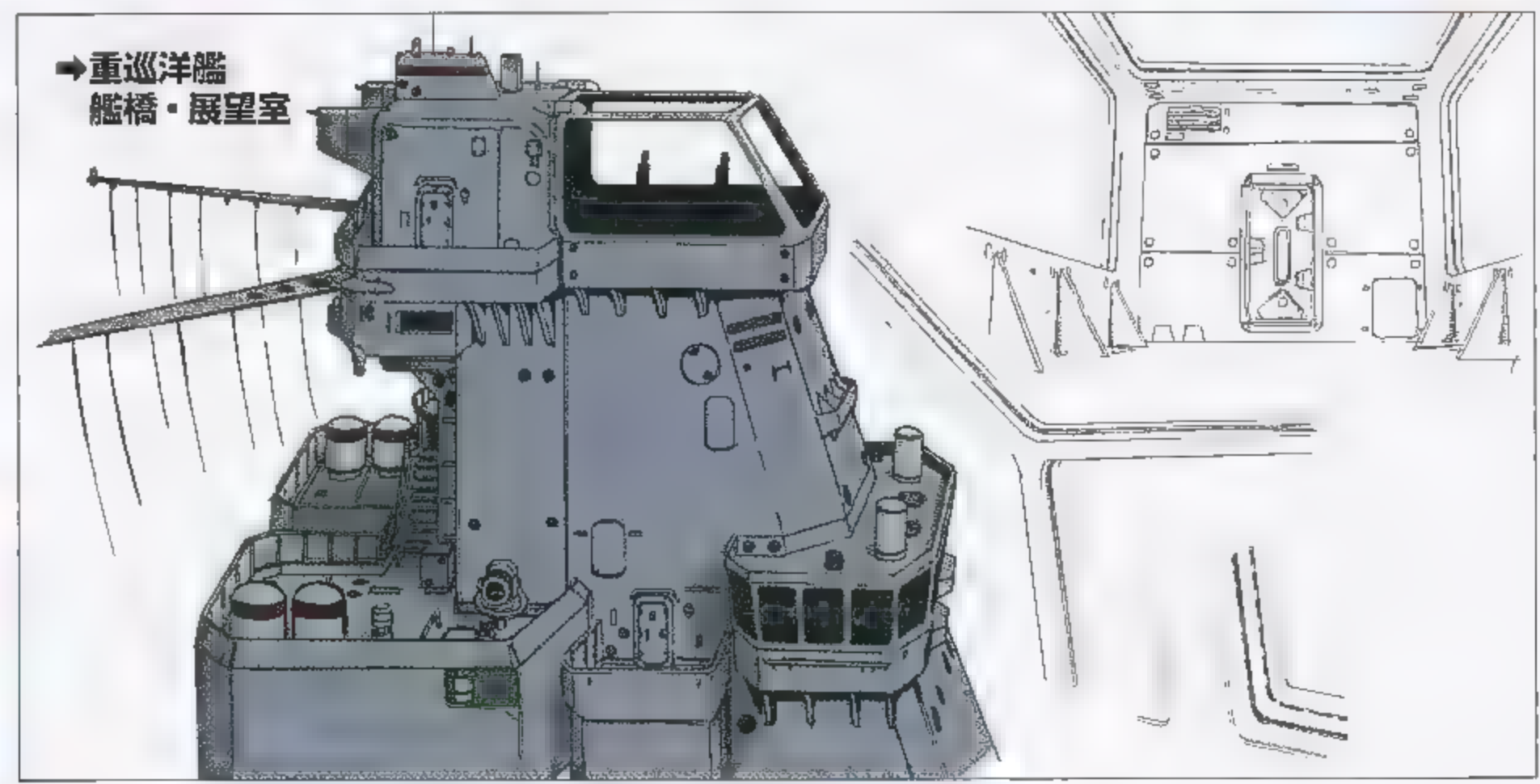
巡洋艦等

イージスシステム搭載と思しき巡洋艦は、海上を移動する式号機の足場として使われた。なお、艦隊主力のフリゲートは、使徒の体当たりで次々と轟沈。



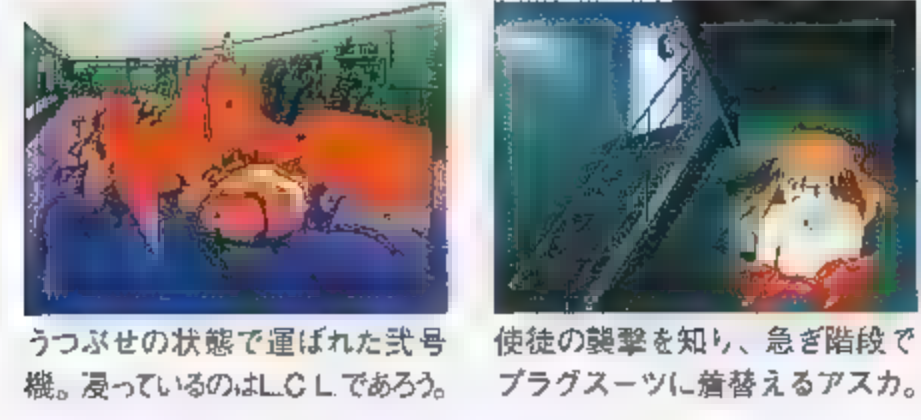
対潜魚雷を放つフリゲートだが、高速で動くガギエルを捕捉できない。

使徒殲滅作戦で戦艦を自沈させる際に、下船した乗組員を救助するフリゲート。



EVA輸送用改造タンカー

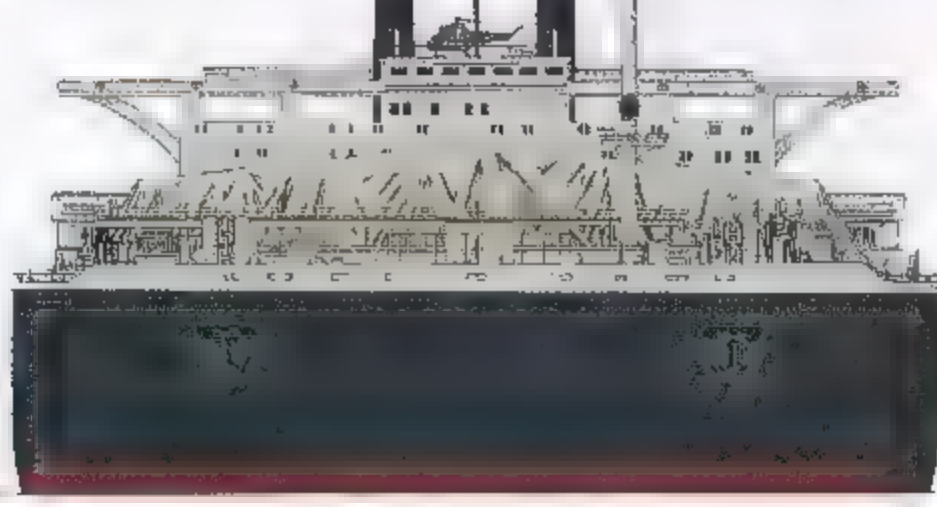
EVAを輸送するための特製タンカー。オーバー・ザ・レインボウの左舷後方に追従していた。ブリッジの頭上に着艦している攻撃ヘリは旧ソ連製のMi-2。



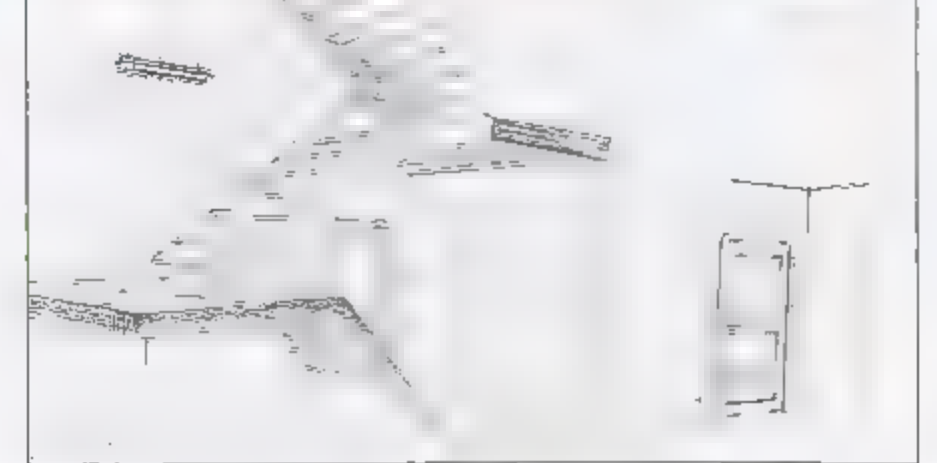
うつぶせの状態では運ばれた式号機。浸っているのはLCLであろう。

使徒の襲撃を知り、急ぎ階段でプラグスーツに着替えるアスカ。

↓タンカー正面



↓タンカー内階段



特記事項

ガギエルとの戦闘

式号機の輸送中に遭遇した第6使徒ガギエル。通常兵器の無力さは海上でも変わらず、太平洋艦隊は次々と沈められていった。起動した式号機も水中では満足に動けず危機に陥る。しかし、葛城ミサトの作戦により両者が力を合わせたことで使徒の殲滅が叶った。

世界最大の空母を超える体積のガギエルによって水中に引き込まれた式号機は、水中戦を余儀なくされる。

戦艦2隻の零距離射撃と自爆を口腔内に受けたため、A.Tフィールドを機能できず殲滅されたガギエル。

- RELATED CHARACTERS
- オーバーザレインボウ艦長
 - 旧伊東沖遭遇戦
 - 第6使徒ガギエル
 - 国連軍
- 国連海軍の太平洋艦隊を指揮する人物。良くも悪くも軍人気質の男で融通が利かず、EVA式号機の輸送に不満を持つ。

インステレーションシート

Installation Sheet

NERV 中央作戦司令部

Sheet

03

NERV 中央作戦司令部

中央作戦司令部

施設の担う役割とその概要

対使徒戦略において最も重要な施設であるNERV本部。その中枢ともいえるのが、最高司令官の碓ゲンドウ、副司令官の冬月コウゾウら主要人員が作戦指揮をとる施設、中央作戦司令部である。あらゆる作戦行動の立案、発給、中継、指示に使用されている本所を統轄しているのはゲンドウだが、実質的な指揮を執るのは葛城ミサト、運用には部門別のオペレーターが当たっている。ちなみに、中央作戦司令部は、NERVの前身と言われる調査機関ゲヒルンにおいてすでに建造が進められていた施設である。この頃からゼーレ、ゲンドウ、冬月といった一部の要人が「使徒の襲来」が回避し得ない出来事と認識していたことを考えると、中央作戦司令部は早期から対使徒戦略の中心となることを義務づけられた施設だったとも言える。

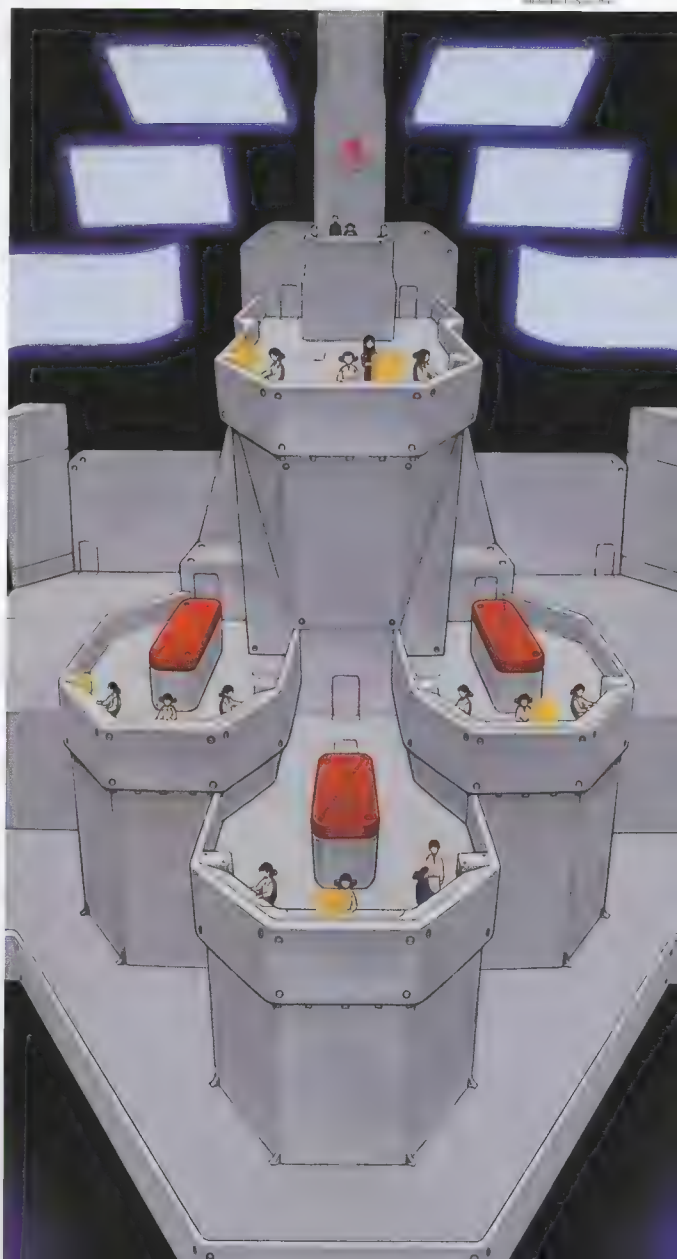
余談ではあるが、使徒の目的はNERV本部の最深部、ターミナルドグマに安置されているアダムであり、両者が接触した場合にはサイドインパクトが発生するとも言われている(実際に安置されていたのはリリスであったことがのちに判明する)。その「使徒の目的地」とでもいうべきターミナルドグマは中央作戦司令部直下に位置している。あえて危険な場所に司令部を建造した意図は不明だが、第9新東京市にて使徒を迎撃する場合、中央作戦司令部は常に背水の陣で事に臨むことを余蘊なくされている。



- 冬月コウゾウ
- 碓ゲンドウ
- MAGI



NERV 中央作戦司令部
 碓ゲンドウ
 冬月コウゾウ
 MAGI



対使徒戦略の中樞を担う 中央作戦司令部の体制

ジオフロント地下、メインシャフトに添う形で設置されている中央作戦司令部、第1発令所。司令塔、MAGI、副発令所といった主な施設は、常に多数のオペレーターが配置されている。ただし、EVA操縦者への指示といった具体的な対使徒戦の指揮系統は司令塔に集約され、最高司令官である碓氷ゲンドウを始め、冬月コウゾウ、葛城ミサト、赤木リツコ、伊吹マユ、日向マコト、青葉シゲルらスタッフが集結して対応することとなる。

ちなみにNERV本部施設内には、第1発令所と同様の構造を持つ予備発令所、第2発令所が存在する。これは前述した「使徒の目的地」を鑑み、第1発令所が被害を受けるとの可能性があることを考慮したうえでの備えと見られる。



研究機関がヒルンにおいて、すでに対使徒戦を想定して建設されていた第1発令所。ちなみにNERVへ移行する前夜、冬月コウゾウが部下の死を遂げた現場でもある。



第2発令所の構造。機能は第1発令所とほぼ等しいが、マヤ曰く「電子はきつしい、センチは弱い」というような若干の差ももあったようだ。

特記事項

中央作戦司令部の危機管理

2階の職員室に設けられる中央作戦司令部、つまり第1発令所は、第14使徒の襲撃により破壊、被害を受けた。以降はそこの1階に備えて用意されていた第2発令所が作戦指揮の場となるが、これも人類補完計画開始時、戦術自衛隊により断崖寸前の状態に置かれたと目されている。NERVが「使徒理事」を最優先とする戦略とはいえ、中央作戦司令部の建造場所や職員室に被害を蒙ることは高確率であったと推測される。



使徒襲撃の目的は、カール・ウェーバーによるNERV本部の破壊と、NERV本部の職員に被害を及ぼすことにある。NERV本部の職員は、NERV本部の職員と対峙している。NERV本部の職員は、NERV本部の職員と対峙している。



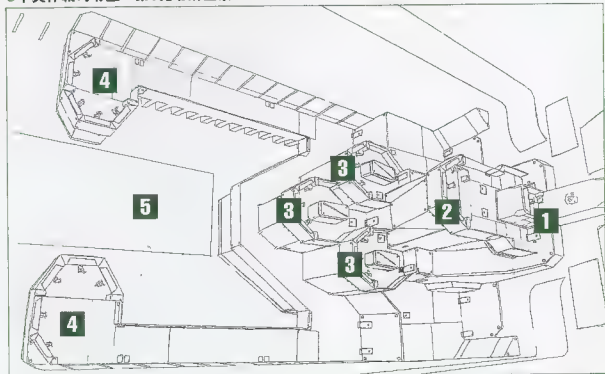
NERVは通常、NERV本部の職員に被害を及ぼすことには慎重である。NERV本部の職員は、NERV本部の職員と対峙している。NERV本部の職員は、NERV本部の職員と対峙している。

第1発令所の構造

複数の階層に区切られる中央作戦司令部は、上から実際の作戦指揮を執る司令塔、司令席及びオペレーター席、MAGI（総合分析所）、副発令所に分かれており、下層はアンダーフロアと呼ばれることもある。その他のス

ペースには正面大型スクリーン、側面、背面スクリーンのほかに、状況に応じて出現する立体投影スクリーンなどがある。なお、第14使徒ゼルエル襲撃時に第1発令所は大破、以降は、第2発令所が使用されることとなった。

●中央作戦司令部 第1発令所全景

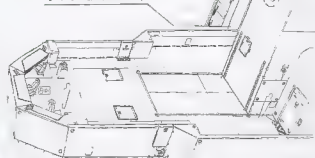


1 司令塔 / 司令席

2 司令塔 / オペレーター席

実際の作戦指揮の場となる司令塔には、ゲンドウと冬月の定位置である司令席と、作戦を補佐するマヤ、マコト、青葉が使用するオペレーター席がある。ここには非常用降機が設置されているが、司令席自体が床面に収納可能となっている。なお、各デスク上には必要に応じて投影式ディスプレイが出現する。

司令塔 (司令席収納時)



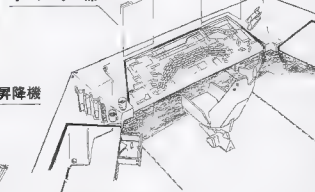
基本的にC-7を程度で司令塔に集約される。なお、マヤ、マコト、青葉の配置は固定。青葉の席のみ、机上電話が4機設置されている。

司令席

非常用昇降機



オペレーター席



3 MAGI

NERVの全システム制御を担う、人格移植OSを搭載したスーパーコンピュータ。メルキオール、バルタザール、カスパーと名づけられた3基の人工知能で構成されており、システム開発者である赤木ナツコ博士曰く、科学者、母、女としての自分(人格を移植したもの)であるという。



MAGIを構成する3基のスーパーコンピュータにはそれぞれに5名分のオペレーター席が用意されている。司令塔、総合分析所の作業がメインとされるが、こちらはあくまでサポート的な細かい作業を行なっているものと推察される。

4 副発令所

司令塔から離れた位置にある、左右の副発令所。それぞれに5名分のオペレーター席が用意されている。司令塔、総合分析所の作業がメインとされるが、こちらはあくまでサポート的な細かい作業を行なっているものと推察される。

5 前方投影スクリーン

司令塔の正面中央には、立体映像を映し出す3層の投影スクリーンが出現する。なお、周囲の壁面にもスクリーンが設置されているが、正面大型スクリーン以外はいくまで補助的なものだ。

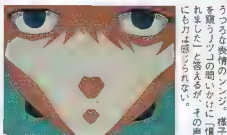
A.D.2015

●NERV

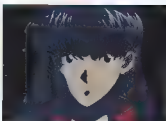
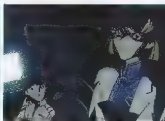
01

シンジ、EVAの射撃訓練を行なう
當われるままにシンジは訓練をこなす

NERV本部の地下施設で、シンジは射撃訓練を赤々と行なっていた。「目標をセンターに入れてスイッチ」赤木リツコに指示された言葉をもボソボソとつがやきつつ、仮想空間に表示されたターゲットに射撃を繰り返すシンジ。その表情には生氣といったものがない。そんな彼の様子をミサトはじっと眺めていた。シンジのEVA搭乗はNERVの一員である彼女にとって歓迎すべきことのはずだが、なぜか初符機を見つめるミサトの表情は曇った。



うつろな表情のシンジ。標子を照らすリツコの明いけむりにまみれたミサトの顔が、その声に震え、目を凝らす。



よくEVAへ乗る気になってくれたという伊吹マヤの言葉に、「人の言うことにおとなく従う。それがあの子の処世術じゃないの？」とリツコは答えた。その一方で、ミサトは険しい表情でシンジの訓練の様子を眺めていた。

A.D.2015

●第壱中学校

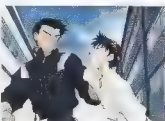
02

トウジ、シンジともめる
トウジは自らの憤りをシンジにぶつけた

シンジが人型兵器のパイロットであることがわかったトウジは、自分の妹が保護を失われたという憤りを表現することができなかった。校舎裏へシンジを呼び出し、怒りのままに殴りつけたのだ。だがシンジは抵抗せず、「ぼくだって、乗りたくて乗ってるわけじゃないの!」と小さく言い捨てただけだった。その言葉にさらに怒りを募らせたトウジは胸倉をつかみあげると、ふたたびその顔を殴りつけたのだ。



妹思いのトウジを惹き立て、暴怒を覚ればは気が狂ったシンジを校舎裏へ呼び出す。思い切り拳を打ちつけた。



内心の不満を口に出してしまっただけのシンジの胸倉をつかむトウジ。事情を知らないトウジの目には、今のシンジの態度はクラスメイトにちやほやされた上にとどまらないうる責任転嫁をしているように見えたのかもしれない。

2015年

 シンジ、
 NERV本部にて、
 EVAの射撃訓練を行なう

 ミサト、
 シンジの様子を気にする

 シンジ、
 第壱中学校に登校

 トウジ、
 2週間ぶりに登校

新世紀年表

 NEW CENTURY
 CHRONOLOGY

第1回 転校生 A TRANSFER

2015年、NERV本部の地下施設で、シンジは射撃訓練を赤々と行なっていた。「目標をセンターに入れてスイッチ」赤木リツコに指示された言葉をもボソボソとつがやきつつ、仮想空間に表示されたターゲットに射撃を繰り返すシンジ。その表情には生氣といったものがない。そんな彼の様子をミサトはじっと眺めていた。シンジのEVA搭乗はNERVの一員である彼女にとって歓迎すべきことのはずだが、なぜか初符機を見つめるミサトの表情は曇った。

A.D.2015

●第3新東京市

02 ミサト、シンジの様子を気にする

同居をはじめたミサトは、生氣なく日々を過ごしているシンジの様子を心配していた。「あいつ、ひょっとして友達いないんじゃないから……」学園へ出かけるシンジを送り出したあと、電話をかけてきたリツコにミサトは怒念をもらす。しばらく前に手渡した辞書もまったく使われている様子がないのだ。リツコはそんなミサトに、シンジは他人と触れ合うのを怖がっているのかもしれないと答える。



「学校のほはもう慣れたの？」ミサトは塾校前のシンジに聞いてかけるが、シンジはあいまいな答えを返すばかりだった。

緑髪レイもシンジのクラスメイトだったが、独口な彼女はシンジを含めて誰とも交わらんとせず、ひとり室の外を眺めていた。

A.D.2015

03 トウジ、2週間ぶりに登校

シンジのクラスでは、ずっと休んでいる鈴原トウジのことについて、洞木ヒカリと相田ケンスケが話していた。そこへトウジ本人が登校してくる。先日の戦闘でトウジの妹が犠牲になってしまい、ずっとそばにいたのだというのだ。一方、クラスではある噂が流れていた。それは、事件後に転校してきたシンジがEVAとと呼ばれる人型兵器のパイロットなのは、というもどだった。



トウジは学園指定の制服ではなく、もっぱらジャージ姿で過ごすことが多かった。

前回の戦闘のあおりで妹が犠牲してしまったトウジは、全額パイロットのせいでこのしる。



●第8中学校

04 シンジ、クラスメイトにEVAパイロットであると知れる

ノートPCを拡げての数学の授業中、ふいにシンジのPCへクラスメイトからメッセージが送られてきた。「壁くんがあのロボットのパイロットというのはホント?」篮球過ぎる間に、考え抜いた末に「YES」と打ちここのシンジ。だが、そのやりとりをクラス全員がモニターしていたため、教室内は騒然となってしまった。生徒たちに取り囲まれて質問攻めに合うシンジだが、トウジだけは不愉快な顔つきでその光景を眺めていた。



多数の生徒たちに囲まれて戸惑うシンジ。彼らは世界を中するというパイロットが自分の級友であることに興奮しているようだった。

ケンスケも興味津々のシンジの発言に耳を傾けるが、たどむトウジだけは、きついな顔でシンジを睨みつけていた。



A.D.2015

●第3新東京市

06 第3新東京市に新たな使徒が接近

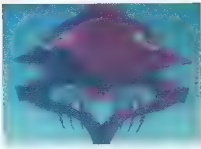
新たな使徒の出現に、迎撃準備が始まる

その頃、新たな使徒が第3新東京市へ向かって接近しているのが確認された。東海地方を中心とした関東、中部全域に特別非常事態宣言が発令され、NERVではたかだちに対空迎撃の準備が迫る。ゲンドウの不在を異なったような使徒の来襲に、ミサトは「こちらの都合はおかまいなしか。女性に勝つるタイプね!」と軽口を叩いた。



↑虫のようなフォルムの使徒。羽と思えるものは夏虫たならぬが飛行能力を有しており、海上を低空飛行してきた。

↑非常召集。先、行(から)倒れたままのシンジの下へやってきました。レイは、それだけ言い残すと駆け去っていった。



新たな使徒は、時間と同様に地上を北上し、第3新東京市へ向かって接近していた。



父から見限られ、人に愛されてまで、なす自分自身はAに集まるまで、シンジは自問する。

07 トウジとケンスケ、シェルターを抜け出す

迎撃準備が進む中、トウジら学園の生徒たちは地下避難所へと退避していた。だが地上の様子を報道されないことにいらついたケンスケは、トウジに地上へ出ようともちかける。気が乗らない様子トウジだったが、シンジを助けたからには戦いを見守る義務があるんじゃないかというケンスケの言葉に、しぶしぶながら了承するのだった。



テレビでは非常事態を告げるテロップが流れるだけ。突を食ったケンスケは、トウジに服をす手渡してくれと頼む。

●第3新東京市

07 トウジとケンスケ、シェルターを抜け出す

ミサトはレイのケンスケはEVAの活躍に強い関心があった。



テレビでは非常事態を告げるテロップが流れるだけ。突を食ったケンスケは、トウジに服をす手渡してくれと頼む。

トウジとケンスケ、シェルターから抜け出す

一般市民はシェルターに避難

非常召集がかかる

第3新東京市に新たな使徒が接近

トウジ、シンジともめる

トウジ、シンジを校舎裏に呼び出す

シンジがEVA初号機のパイロットであるとクラスメイトに知れてしまふ

A.D.2015

08 トウジとケンスケ、初号機の戦闘を自撃

シエルターを抜け出したトウジとケンスケは見晴らしのいい場所へ駆け上がった。おりしも眼下の街では、パレットライフルを手にした初号機が使徒と対峙するところである。興奮しながらビデオカメラを覗きこむケンスケ。一方のトウジは戸惑った面持ちで戦いを見守っていたのだが……。



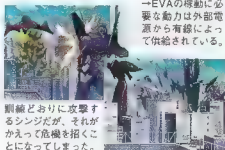
シエルターの出口は避難地区から8ほど遠くない山中の洞窟に開いていた。



ゆっくりと体勢を変え、使徒、ケンスケの2度目の戦いが始まろうとしていた。

09 初号機、使徒との戦闘に苦戦

外部電源を断たれ、危機に陥るEVA
A.T.フィールドを中和しつづー斉射撃一訓練どおりに攻撃を仕掛けるシンジだったが、立ち込める煙で敵の姿を見失ってしまった。その隙を縫うように触手を伸ばした使徒に、初号機一は銃を切り落とされてしまう。使徒が触手を閉するたび周辺のビルがなぎ払われていく。ついには初号機に電力を供給するアンピリカル・ケーブルまでもが切断されてしまった。



EVAの稼動に必要な動力は外部電源から電線によって供給されている。

訓練どおりに攻撃するシンジだが、それがかえって危機を招くことになってしまった。



初号機はEVAを起動し、使徒との戦いに入る。トウジは興奮しながらビデオカメラを覗きこむ。初号機は使徒と戦っている。アンピリカル・ケーブルは切断されてしまった。

A.D.2015

12 シンジ、撤退命令を無視

命令を無視したシンジは突撃を敢行
トウジとケンスケのふたりが無事にエントリーブLAGに収容されたのを確認したミサトは、シンジに一時後退を命じた。だが、なぜかシンジはその場を動かさずじまい。さらにトウジが nearby 呼びかけても顔をうつむけ、まるで呪文のように、あるひとつの言葉を繰り返すばかりである。「逃げちゃダメだ、逃げちゃダメだ……」その時のシンジには、誰の声も聞こえていないようだった。



→ジャケットにふたトランプンという飾り付けた家で、ミサトは指揮を執っていた。

冒険よくトウジたちをブLAG内に収容したシンジは、顔を見て後退を促さず成功することになった。



無印が滑り、液体が乾く。シンジは使徒の指は、まだ人間の手と見えていた。シンジは使徒の指を握り、自分から逃げようとした。

シンジは怯える自分から逃げようとした。シンジは使徒の指を握り、自分から逃げようとした。

13 初号機、使徒に突進

ナイフ1本で使徒に挑む初号機
初号機にブログ・ナイフを装備させたシンジは、叫び声をあげながらまっすぐに使徒へと飛びかかっていった。だがケーブルが断線しているいま、EVAの稼動時間はもうわずかなしい。ミサトたちが圓盤を各で見守るなか、使徒の触手にEVAの顔が貫かれた。それでも初号機は速度を緩めず、ついに敵のコアへとナイフを突き立てた。



→戦術形態の使徒。しなる触手はビルすらもやすやすと切り裂く破壊力がある。

「あのバカ」命を犠牲して使徒へ向かうシンジに、ミサトは小さくつぶやいた。

2015年
第3新東京市内へ潜入

使徒、

EVA初号機、発進

トウジとケンスケ、初号機と使徒の戦闘を自撃

初号機、パレットライフルで使徒を攻撃

使徒の位置を見失う

初号機、ム子状の触手で使徒を攻撃

初号機のアンピリカル・ケーブルが切断される

初号機、使徒との戦闘に苦戦

シンジ、トウジとケンスケの存在に気付く

●第3新東京市

10 シンジ、トウジたちに取材く

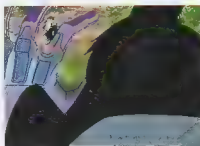
いるはずのない級友の姿にシンジは驚愕する

触手1足をつかまれた初号機は宙に吊り上げられ、トウジとケンスケがいる方向へと投げ飛ばされた。山の中腹に撃いよけ叩きつけられる初号機。衝撃をこらえ、プラグ内で必死に身を起こしたシンジは、モニターに映る周辺映像を見て息を呑んだ。機体のすぐ近くに、トウジたちがうすくまっていることに気づいたのだ。なぜ民間人がこんなところに? 現場をモニターしていたミサトたちもまた、驚きの声をあげる。だが、いまはのんびりと状況を把握する余裕はなかった。EVAへ追い打ちをかけるようにと、使徒が周辺に迫っていたのだ。



初号機の足首をがちりちりつかんだ使徒は、その機体をやすやすと吊り上げ、近くの上へ向かって投げ飛ばした。

EVAが自分たちのほうへ飛んでくるのを、気づかず、目を見張るトウジたち。彼らのすぐそばに、EVAが激襲と共に落下した。



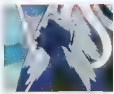
初号機の宙の間にクラスメイトがうすくまっていた。トウジは驚き、目を丸くさせた。



高みの怪物が二転一転、敵陣に巻いてくる。高みから襲い掛かってきた初号機を、EVAは激襲する。

11 ミサト、トウジたちをエントリープラグに収容

使徒の激襲を初号機はからうじて受け止めた。だが、トウジたちが近くいたままでは思うように戦うことができない。状況をすばやく見てとったミサトは、ふたたびエントリープラグ内へ収容するように指示を出す。許可なく民間人をプラグ内へ収容することは重大な越権行為だとリツコは詰め寄るが、ミサトは考えを曲げなかった。



一向に反撃しようとしてない初号機を見て、自分たちが足かたになっているのどか怒るケンスケたち。

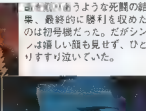


詰め寄るリツコを見送るミサト。同じ機関に所属するふたりの考え方の違いが浮き彫りになった瞬間だ。

●第3新東京市

14 シンジ、使徒殲滅に成功

互いを貫きながら組み合う使徒と初号機。使徒が割れるのが早いから、EVAが動けなくなるのが先か……。緊迫の時間が過ぎ、EVAの動力が切れるまさにその寸前、ついに使徒は完全に沈黙した。胸をなでおろす人々。だが、勝利を勝ち取ったはずのシンジは、ひとり唖咽をこらえていた。想像もしなかった戦況の過酷さ。それを知ったトウジは目の前で覆る背中をただ見つめるしかなかった。



血を流しぬぐうように死闘の結果、最終的に勝利を収めたのは初号機だった。だがシンジは誰い顔も見せず、ひとりで泣き泣いていた。



正面から襲い掛かってきた初号機に反撃する使徒。鋭い触手がEVAの扉扉を貫通する。

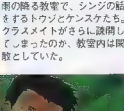
互つたように死闘を繰り返す。シンジは最後の瞬間、プラグに、ナインを突き立てたのだ。

A.D.2015

●第壱中学校

15 シンジ、学校を休む

使徒との戦いから3日が過ぎた。あの日以来、シンジは学園に姿を見せない。不葬用に着たことを心配するトウジへ、心配だったら電話してみればいいと、ケンスケは連絡先のメモを手渡す。さっそく学園の公衆電話でメモに書かれた番号を押していくトウジ。だが、ふとその手が止まった。閉音が響く中、シンジにかけた言葉のないことに気づいたトウジは、そのまま、その場を立ち去るのだった。



車の除る放電で、シンジの絡めするトウジとケンスケたち。クラスメイトがさらに談笑してしまっただか、教室内は閑寂としていた。



ミサト、トウジとケンスケをエントリープラグに収容することを決定

シンジ、トウジとケンスケをエントリープラグに収容

シンジ、一時撤退と態勢を立て直し指示

シンジ、撤退命令を無視

初号機、使徒に突進

プラグレッツシナイフで接近戦を仕掛ける

シンジ、使徒殲滅に成功

シンジ、第壱中学校を欠席



第3新東京市へ飛来する使徒は、EVAの機体へ撃突する。シールドへの侵入を試み、シールドを破壊した。その後、使徒の能力を測定したNERVは、第3新東京市での迎撃を諦め、新たな作戦を立案。「ヤシマ作戦」と名付けられたこの作戦は、二子山頂上を攻撃地点として、使徒に対し長大距離から迎撃を行うというものであった。急ぎづく準備が進められた本作戦は、全てが予測や推測の上で行われていた。

第3新東京市外における 初めての作戦行動とその結末

TACTICS SHEET

EVAは第3新東京市での連携があつてこそ、兵器として能力を発揮することは、第4使徒との戦いで証明された。だが、もし、都市との連携が断られた場合、EVAの行動にはどのような影響が発生するのだろうか。アンビリカル・ケーブルによる電力供給、兵器の換装、そして各種サポートが断られるであろうことは容易に想像がつく。しかし、使徒との戦闘が第3新東京市内で行なわれる以上、こうした状況が発生することは極めて稀といえる。だが、第5使徒ラミエルとの戦闘は、そうした前提や想定される運用方法を根底から覆すものであった。

第3新東京市は「対使徒迎撃要塞都市」として建造されている。「要塞」という言葉からも分かる通り、その内部にもあるもの(この場合はジオフロントを指す)を守るために都市は存在しているのである。広範な意味で捉えればEVAも第3新東京市の有する迎撃

システムのひとつといえる。しかし、ここでひとつの問題が見出される。都市(要塞)内に敵が侵入し、迎撃システムを排除した場合はどうなるのか、というものである。通常、外部に対する攻撃手段しか持たない要塞は、内部に侵入したのに対して有効な手段を発揮しえない。これが当てはまる戦闘が第5使徒ラミエルとの戦いであった。

NERVが海上より飛来した使徒を察知したのは、EVA零号機の再起動実験の最中であつた。使徒の接近に対し、EVA初号機を出撃させるが、EVA初号機は出撃直後に使徒の加粒子砲を受け、推進を余儀なくされた。NERVは使徒に対する唯一の攻撃手段を失っただけではなく、第3新東京市という「要塞」を敵に奪われたのである。この状況においてNERVは、使徒の能力の把握に努めた。その結果、使徒は攻守共にほぼ完璧な能力を持ち、EVAを都市内に展開しても、撃破は困難と推測された。

第3新東京市という「要塞」を失ったNERVは、新たな作戦を立案した。葛城一尉が考察した「ヤシマ

作戦」は、「(第3新東京市外からの)使徒に対しての長大距離迎撃」であつた。賭けともいえる本作戦は、使徒の能力と第3新東京市という利点を失ったNERVの苦肉の策とも考えられる。しかし、これ以外に都市という要塞の中に立て籠もる使徒を撃破する手段はなかったのである。こうして「ヤシマ作戦」——これは日本の古称である「八洲」と、かつて源平の合戦が行なわれた「屋島」のふたつの意味があるとされる。真相は明らかではないが、前者は本作戦が日本中の電力を使用したため、後者は屋島の合戦においてある武者が一撃で目標を射止めたという故事にちなんだものと言われる——は声ノ湖を挟んだ二子山の頂上を狙撃地点にして実施されたのである。

RELATED MATTERS

- 第5使徒ラミエル
- エヴァンゲリオン初号機
- エヴァンゲリオン零号機
- エヴァンゲリオン二子山頂上
- 第3新東京市



正八面体で構成された使徒。加粒子砲と内蔵でも確認できるほどのATフィールドを持つ。

「のど」と「しい」の立

使徒の接近を確認したNERVは、即座にEVA初号機を出撃させた。両者は第3新東京市で対峙したが、使徒の放った加粒子砲により、EVA初号機は中破、攻撃を行なうことなく回収された。その後、使徒は本体下部よりシールドを展開すると、ジオフロントへの侵入を開始した。

EVAを回収したNERVは機体の修理と平行して、使徒の能力の測定を実施した。自走白砲やダミーバルーンを使用した測定の結果、使徒は本体を中心とした一定の範囲内に侵入した外敵に対し、自動的に攻撃を仕掛けることが判明した。また、加粒子砲とA.T.フィールドは、使徒に絶対的な攻撃力と防弾力を付与しており、通常の方法——例えば兵器であっても——では使徒を撃破することは不可能であることが間違いないかった。

決定的な打開策のない状況下において、葛城一尉はひとつの作戦を立てた。その作戦とは、超高出力のエネルギーを用いた使徒への遠距離射撃であった。MAGIによる採決を受け、さらに司令の許可を得た本作戦は、8.7%という勝算の下、遂に始動することとなった。

「のど」と「しい」の立

海上より飛来した使徒は、塔ノ沢を通過すると、南ノ湖方面から第3新東京市に侵入し、報告を受けたNERVでは、第一種警戒態勢を取ると同時にEVA初号機の出撃準備に入った。しかし、使徒の加粒子砲により、EVA初号機は中破、回収を要する。その後、NERVは遠距離からの狙撃やサミーを用いた使徒の能力測定を実施したが、その結果は難攻不落、といふほかなく、現時点では効果的な攻め方は見出せなかった。



強力な攻撃力と絶大な防弾力を有する使徒は、その力は、通常の兵器では到底、ダメージを与えられない。

1 使徒の確認と、第一種警戒態勢への移行

使徒が接近中との報告を受けたNERVでは、第一種警戒態勢を取ると同時にEVA初号機の出撃準備を進めた。NERV本部実験場では、EVA零号機の再起動実験が行われていたが、应用到はできないとの理由で投入は見送られた。



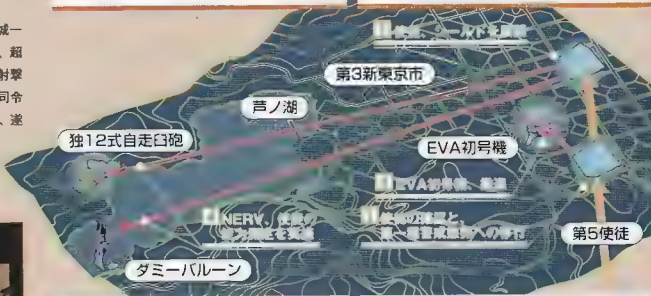
報告を受けた司令の命令により、EVA初号機の準備が進められた。

2 EVA初号機、撤退

ジオフロントよりEVA初号機が出撃した直後、使徒本体に高エネルギー反応が観測された。これに対し、葛城一尉は撤退を命令するが、その瞬間、使徒から発射されたビームが命中、EVA初号機は大ダメージを受け、撤退を余儀なくされた。



使徒の攻撃の前に、EVA初号機の機甲はすでに中破した状態であった。



技術調査

エヴァンゲリオン零号機再起動実験

第5使徒が出現する直前、NERV本部においてEVA零号機の再起動実験が実施された。実験内容はかつて行なわれた起動実験とほぼ同じであった。特に今回は、起動の瞬間には発生するとなく、実験は成功している。その際、実験場に移行する直前に使徒の接近が感知されたため、実験は中断された。



EVA零号機の投入を命じた葛城司令は、実験中に発生した異常を察知し、NERV本部に報告を出した。



1割前後の範囲内での起動が判明されることを、再起動実験が行われた。

司令官の命令により、再起動実験が行われた。実験内容はかつて行なわれた起動実験とほぼ同じであった。特に今回は、起動の瞬間には発生するとなく、実験は成功している。その際、実験場に移行する直前に使徒の接近が感知されたため、実験は中断された。

3 使徒、シールドを展開

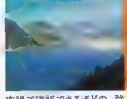
如斯くにより、EVA初号機を撤退させた使徒は、第3新東京市において、本体内部からシールドのような装置を展開した。使徒はこれを用いてジオフロント、さらにNERV本部への侵入を試みようとしていた。



使徒のシールドを展開した地点は、NERV本部の直上であった。

4 NERV、使徒の能力測定を実施

使徒がシールドを展開した直後、NERVはその能力の測定を行なった。その内容は、使徒の攻撃力と防弾力、そして知覚能力（遠距離間なども含まれる）を中心としたもので、その結果は「改訂版には完璧な能力を有すると判定された。



肉體で確認できるほどの、強力なA.T.フィールドを展開することも明らかとなった。

特記事項

使徒の行動パターンについての考察

現在までに出現した3体の使徒は、その全てが第3新東京市に襲来している。なぜ、使徒が第3新東京市を目標とするのか、その理由は依然として不明である。しかし、今回の第5使徒の行動から、ひとつの仮説が立てられる。それは、「使徒はジオフロント、もしくはジオフロント内のどこかを目指しているのではないか」という仮説である。さらに、ジオフロント内にNERV本部が置かれており、第5使徒がシールドを展開した場所がその直上であることを見ても、その仮説が限りなく真実に近いことは明らかである。これ以降に出現するであろう使徒の行動を分析することで、使徒の行動パターンやその目的、さらには最終的な目的まで明らかにすることができるかもしれない。

第3使徒 サキエル

15年ぶりに出現した使徒。第3新東京市を目的地として進み、体内から発したエネルギーによる地表の破壊などを行なった。これはサキエルなどの上部防弾物の破壊が目的であったとも推察されている。



再始兵器として必要な再生機能や学習機能、自己修復機能などを有している。

第5使徒 ラミエル

正八面体という特殊な構造を持つ。本体下部より、シールドを展開し、ジオフロントへの侵入を試みた。加粒子砲とA.T.フィールドはシールド展開中に外敵の侵入を迎撃するためのものでもある。



その外見とは真逆な構造を有し、伸縮能力を持つ機体であった。

ヤシマ作戦の概要

EVA初号機の搬送から数時間後、葛城一射が立案した「ヤシマ作戦」が遂に開始された(具体的な実施日については不明)。わずかな時間で全ての準備。EVA初号機の修理とボルトロンズナバーライフルの改修、日本全国からの電力の供給ルーティンも完了したNERVは、二子山頂上に指揮所を仮設し、作戦の指揮を行なった。今回の作戦は、2機EVAが投入された初の作戦で、初号機が射撃を、零号機がシールドによる防御を担当した。

この割り振りは、今回の任務の特性によるもので、より精密な射撃。零号機は地球の自転、磁場、重力の影響を受けるため、バレットによる誤差修正を必要とした——が要求されたためである。比較的、起動時の安定性に優れた初号機が射撃を担当したことも、こうした理由によるものである。また、使徒の加粒子砲に対しては、SSTO(スペースシールド)の裏面をシールドに加工して対応した。

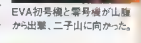


このタイミングは事実上、一度と推測された。



ヤシマ作戦発動 二子山に前線指揮所を設置

ヤシマ作戦による狙撃地点を二子山頂上に決定。ボルトロンズナバーライフルの準備が完了したと同時に、移動指揮所をはじめ、電撃車などの各種機材の設置を行った。また、EVA操縦者に対する再教育や説明も行われ、各機材も準備が完了している。



EVA初号機と零号機が山頂から出陣、二子山に向かった。

2 ヤシマ作戦、開始

「本機準備時間の自衛客時、遂にヤシマ作戦がスタートした。日本中の電力が二子山へと集中、二子山の電力は、100%に作られた。電圧が上昇し、初号機のシステムはボルトロンズナバーライフルに由来、最終安全装置の解除命令により、発射準備が整った。



作戦開始、二子山の山頂に前線司令部が設置された。

3 第一射目、発射

「撃鉄おこせ」の命令と共に、ボルトロンズナバーライフルが発射可能となった。同時に、使徒内部にエネルギー反応が検出。EVA初号機が1発を引いた瞬間、使徒はエネルギーを吸収、両者のビームは両方の上空で交差し、狙いは異なる場所に着弾した。



第一射目を外した。狙いは異なる場所に着弾した。

零号機による初号機の防御

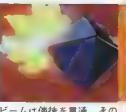
EVA初号機が射撃を撃つよりも早く、使徒の攻撃が発射された。EVA初号機に命中する直前、シールドを構えたEVA零号機が加粒子砲を防御した。しかし、数秒後、シールドは完全に融解し、零号機は本体をもって加粒子砲から初号機を守ることとなった。



この段階で再発射までは1秒遅延の期間が経過している。

第二射による使徒撃破

零号機の装甲も限界を達していたその時、遂にボルトロンズナバーライフルの再発射準備と再照準が完了。照準と同時に発射されたビームは正確に使徒のコアを貫き、使徒は沈黙、シフトフロントにまで到達していたシールドも停止し、ヤシマ作戦は成功した。



ビームは使徒を貫通、その威力を証明した。

ヤシマ作戦における装備と戦術

ヤシマ作戦において、NERVは遠く東京市街における狙撃ではなく、都市部からの狙撃を行い、これまで行っていた攻撃方法を採用している。このヤシマ作戦を模倣する得るなか、作戦には、使徒が第3新東京市上空に出現すると同時に、強力な加粒子砲も「リファイン」を持ち、さらに攻撃可能な素敵能力を有していたことが挙げられる。そこで、NERVは日本中の電力を利用した長距離からの狙撃を行い作戦を実施し、それに対応した装備を整えたのである。



使徒の加粒子砲を打ち破るには、1億8千万MWという膨大なエネルギーが必要だった。

#1 戦術 長々距離からの狙撃

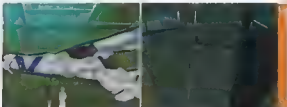
使徒は本体を中心に、半径数キロメートル以上の素敵範囲を持つと推測された。そのため、使徒の素敵範囲外もしくは素敵に時間を費やす場所からの狙撃が、最も勝算が高いの少ない方法として採用されたのである。



使徒までの地形が必要となる設備を配置可能な場所として、狙撃地点には二子山が選ばれた。

#2 装備 任務による特殊装備の開発

ヤシマ作戦では、1億8千万kWもの電力を使用するボルトロンズナバーライフルが使用された。これは戦自研で開発されていた自走タイプのもを復刻、改良して使用した。防弾用として、SSTOの底部をシールドに流用している。



ボルトロンズナバーライフルはNERVでも開発していたが、1億8千万kWもの大電力には対応していなかった。

作戦報告

ヤシマ作戦の総括

ヤシマ作戦は、第3新東京市以外での戦闘、そして複数のEVAによる連携という特殊な作戦であった。本作戦を研究、分析することで、今後の対使徒戦における新たな戦術を編み出すことが可能と思われる。

① 第3新東京市外での作戦行動

元来、EVAは第3新東京市内での運用が基本となっている。都市外で運用する場合は、電源や整備なども運搬、供給するシステムが必要となる。



第3新東京市外での運用を行う際は、EVA以外のシステムも必要となる。

② 複数のEVAの同時運用

本作戦では、初めて2機のEVAを投入した。これにより、戦術の幅が広がるだけでなく、複数の使徒の出現にも対応可能であることが証明された。



未知敵による連携だけでなく、他の場所での同時展開なども可能である。

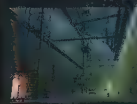
追加報告

撃破した使徒の処理方法

これまでに出現した3体の使徒のうち、第4、第5の使徒は撃破後も回収を留めていた（第3使徒は自爆）。これは使徒の構造などを知るための、貴重なサンプルとしてNERVに回収されている。中でも「コア」と呼ばれる装置は、使徒特有の装置であるだけでなく、その動力源とも考えられており、複数の使徒の中でもその構造の解明が進んでいる。

●分析

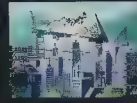
使徒の生態や構造を解明するために、回収された第4使徒のサンプルは分析が行われた。分析の結果、動力源の存在や人間の遺伝子と類似している点などが判明している。



第4使徒は撃破された時点で分析が行なわれると同時に、コアが回収された。

●解体

第3新東京市で撃破された第5使徒は、その跡地市内で解体されている。これは分析や処理を行なうという点以外に、情報保持のための背面支持の処理もされる。



第5使徒の解体風景。その大きさのため、遠望機での撮影が行なわれる。



EVA零号機の身元を、対使徒に活用し、対使徒は射撃のチャンスを得た。ヤシマ作戦は使徒の機動以上に、EVAの効果的な運用方法を模索した作戦でもあった。

A.T.フィールド

A.T.FIELD

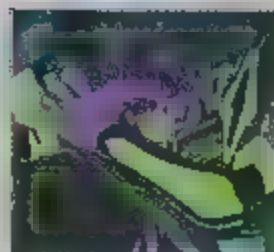
使徒との戦いでは絶対的な障壁として機能し、その一方で、他者との関わりを介しては「心の壁」と称されるA.T.フィールド——その存在自体は確認されているが、発生メカニズムや展開方法など未だ謎の多いこの特殊能力が、人間の精神状態に大きく関係していることはほぼ間違いないと思われる(ならばA.T.フィールドを駆使する使徒にも精神があるかどうかという疑問が生じるが、ここでは人間に限って論を進めることとする)。A.T.フィールドは、他者から傷つけられることを恐れた精神が発達させた物理的、精神的な障壁と考えられるからだ。だが、A.T.フィールド=障壁という等式を突き詰めると、ひとつの矛盾に遭遇することになる。それはA.T.フィールドの発生要因にも大きく関係する矛盾であり、その矛盾を解かない限り、A.T.フィールドの本質を知ることはいかならう。

人はそれぞれ、この世でただひとりきりの絶対的な存在である。自分は唯一の存在であり、自分と同じ人間が存在しないのは自明の理である。とはいえ世界は自分以外の他者で満ち溢れ、そのままでは他者のなかに自分が埋没してしまう。そこで自分と他者の境を明確にし、自己イメージを形成する必要性が生じた——これは自我の発達する経緯をごく単純化したものだが、ここで自分と他者を分ける力となったのがA.T.フィールドと考えられよう。さらに「A.T.フィールドは個体生命の形状を決定する因子」とすれば、自己の発達だけでなく身体イメージまでもがA.T.フィールドによって形成されたと考えることもできる。そして十分に発達したA.T.フィールドは身体イメージの形成のみならず、そのイメージを崩そうとする外的要因(=攻撃)からの防御手段となり、障壁としての機能を獲得したのである。だが、ここで前述した矛盾が表出される。世界で唯一の存在たる自分の精神と身体イメージを決定するために必要なのは、ほかならぬ他者なのである。自分を傷つける可能性のある他者がいなければ、人は自己イメージを形成できず、A.T.フィールドも発現しない。これこそがA.T.フィールドを語る上での矛盾なのだ。

かつて「人はひとりでは生きられない」と述べた者がいる。この言葉が提示するものは、実はA.T.フィールドの本質に近いのかもしれない……

RELATED MATTERS

- エヴァンゲリオン
- 使徒
- エヴァンゲリオンの装備
- ロンギヌスの槍



使徒破滅時、エヴァンゲリオンが作り出した「心の壁」は、実は「心の壁」ではなく、A.T.フィールドの発現による「心の壁」である。

外部からの物理攻撃に
絶対的な防御力を誇る障壁

武器としての機能

戦闘時におけるA.T.フィールドは、外部からの物理攻撃を遮蔽する、バリアーとして機能する。EVAの周囲に発生したA.T.フィールドはある種の位相空間を形成し、極めて高い防御能力を発揮する(現存兵器でこの空間を突破するのはほぼ不可能と言われる)。ちなみにA.T.フィールドが形成する位相空間は波動としての性質を持つようで、発生時には干渉縞のような文様が見られる。そのため位相空間の波長と振動数を割り出し、それと相反するA.T.フィールドをぶつければ、その中和が可能となる。



A.T.フィールド同士を相殺することで位相空間を中和させる。これはその行程をモニターした貴重なショットである。

A.T.フィールドは攻撃が与えられた時に同時に発生する。その際、A.T.フィールドが充分強力ならば、肉弾で位相空間を突破できる。

「心の壁」としての機能

A.T.フィールドの正式名称は「絶対恐怖領域(Absolute Terror Field)」であり、これは「他者との接触の恐怖から自己を守るための障壁」という意味を含んでいる。つまりA.T.フィールドは自分と他者を区別するための壁であり、他者と接触することでしか生きられない生物が発達させてきた能力なのである。この点から見れば人

自分と他人を隔てるために
生み出した精神的な壁

間もA.T.フィールドを有することになり、A.T.フィールドの消失は個体の消滅を意味することになる。「不完全な群衆から完全な単一生命への回帰」を目指す「人類補完計画」も、個々人のA.T.フィールドを消失させることで群衆からの離脱を図っており、このことからA.T.フィールドが個体の発生とその形状維持に大きく関わっていることが推測される。

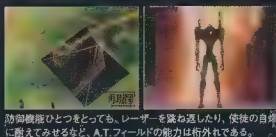


アランチA.T.フィールドは、外部から強制的に個々のA.T.フィールドに干渉することで、個体生命の形状を消失させるものである。

物質量とのシンクロ率が400%を突破したアランチ肉弾を失ったのは、後のA.T.フィールドが崩壊した結果といえる。

戦闘におけるA.T.フィールドの機能

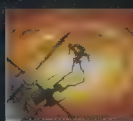
EVAと使徒(その他の敵勢力も含む)の戦闘データなどを分析したA.T.フィールドからは、下に挙げた3つの機能が認められる。物理攻撃としての機能は基本だが、その他の機能も無視できぬほどの能力を秘めているのは確かである。とはいえA.T.フィールドの特殊機能を駆使するのは使徒のみであり、EVAに同じ能力が発揮できるかどうかは不明だ。またこれ以外の用途があるかどうかも、現在のところは判断していない。



防弾機能ひとつをとっても、レーザーを遮り通したり、使徒の身体に刺さるなど、A.T.フィールドの能力は桁外れである。

1 物理障壁としての機能

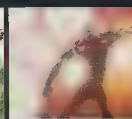
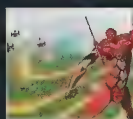
個体の周囲に位相空間を形成することで、外部からの物理攻撃を遮断する。至近距離からのミサイルやロケット砲の連射でも突破は不可能で、小弾頭の直撃でも外部装甲を溶解させるのが難いといえる。



「重厚な護壁」に刺さるほどの防御力を発揮しただけでなく、EVAの突進を軽々と受け止めてみせる。

2 攻撃用手段としての機能

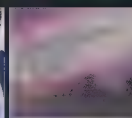
戦略自衛隊との戦闘において、EVA兵器種はA.T.フィールドを武器に転用、VTOL戦闘機を撃墜させた。物質化するほど強力なA.T.フィールドを対象に叩きつけることで、その破壊を試みたのだと思われる。



敵を一閃すると同時にVTOL戦闘機の軌道上にA.T.フィールドを展開。複数の機体を同時に撃墜している。

3 特殊な利用方法

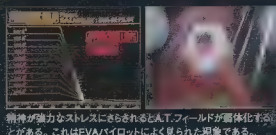
第12使徒レリエルは、自らが生み出した虚数空間(ディラックの海)を保持するためにA.T.フィールドを使用。また第15使徒アラエルはA.T.フィールドに膨張した可視光線を使って心理攻撃を仕掛けている。



どちらもEVAによるA.T.フィールドとはまったく異なる運用方法であり、使徒独自の機能と考えられる。

A.T.フィールドとヒトとの関係

下図に示すようにA.T.フィールドの強さは、生体(個体)の形状や精神(強固ともいえない)の独立性に大きく関係している。A.T.フィールドが強くなれば、それぞれの生命体は個体としての独立性が顕著化するが、他者との関係性に依存することになる。一方、A.T.フィールドが弱体化すると各個体間の肉体的、精神的な境界線は不明瞭となり、究極的にはすべての生命体が溶け合い、無個性の単一生命に突変することになるのである。



精神が強力なストレスにさらされるE.A.T.フィールドが個体化するところ。これはEVAパイロットによく見られる現象である。

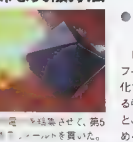


特記事項

A.T.フィールドの特殊な突破方法

●高エネルギーによる強攻突破

圧倒的に強力な外力を加えれば、強制的にA.T.フィールドを突破することができます。第5使徒を撃破するには1億8千万Wのエネルギーを必要とした。



●ロンギヌスの槍の使用

ロンギヌスの槍にはA.T.フィールドを自動的に無効化する能力が何年か前にはあるらしく、たまたまEVAや使徒といえども、槍の突進を止めることはできない。



地球周回軌道に設置する第15使徒を一撃で対強敵能力を示した。

エクストラシート
xtra Sheet

用語辞典

GLOSSARY

加持リョウジ

NERV特殊監察部に所属しながら日本政府内務省調査室にも籍を置く異なった人物。碇ゲンドウの“鈴”としての役目もゼーレから与えられており、二重スパイな三重スパイを演じていた。陽気で軽い外面によって人の心を明かさないう「食えない男」といふよ。ときおり大人の内面を覗かせて含蓄ある言葉を投げかけ、碇シンジに対して助言を与えている。大学時代に葛城ミサトと出会い親密な関係となるが、彼女から別れを切り出されて別離。ふたりの再会はEVA試運転輸送中の海上であり、NERV本部への出向を機会により戻す。加持はNERVのドイツ第3号機で彼達・アスカ・ラングレーの担当を務めたようだが、彼女のNERV本部出向に伴い彼自身も本務部となる。その際アダムとされる復元サンプルをゲンドウへ機渡ししているほか、以前より使徒や人類補完計画などに関する情報操作なども行なっていたようだ。なお、本人がアルバイトと称していたスパイ活動はNERV上層部には公然の秘密だったようで、利用価値があるというゲンドウの判断により泳がされた。そのことは本人も承知で内偵していた様子だが、のちにスパイが公になり数回配置からは外されてしまう。しかし、S機関を切り入れたゲンドウの覚悟を迎えた際、ゲンドウの裏切りを危惧し入れたゼーレの命により冬月コウゾウを拉致。その後、保身のためと冬月を助け出してNERVへ逃げるものの、以降、彼の姿を見た者はいない。加持はセカンドインパクトの真実を知ること命を賭け、そのゆえに舞台が幕を落してしまう。そして彼の知り得た真実は、恋人であり真実を探る同志、ミサトへと受け継がれる。



ジオフロントの一角で悪戯を賣っている加持。賣るといふことには喜びを見出し、悪戯業が趣味という意外な一面を持つ。

下垂システム

人間の下垂体と同様のものと推測される、模倣体の器官。下垂体は脊椎動物が持つ内分泌器官であり、複数のホルモンを分泌する。そのホルモンは、下垂体を流る血流に乗って効率良く全身へと運ばれていく。那智参拝において、第87タンクバ盤から浸食を開始した第11使徒イロウは、下垂システムから模倣体を産し、短時間で制御を奪う。

カスパー

「SUPER COMPUTER MAGI CASPER・3」。3基で構成されるスーパーコンピュータMAGIシステムのサブシステムのひとつ。第3世代の有線コンピュータに個人の人格を移植して思考させる人格移植OS、カスパーには、MAGIシステムの開発者、赤木ナオコ博士の“女”としてのパターンガイブントされているという。カスパーの内部には、ナオコの手によるものであろう裏コードが書かれてメロメロはか、「碇のパカロー」といった隠り書きも見られる。



MAGIのプログラムを書き換えてNERV本部ごと自爆し、碇ゲンドウと心中しようとした赤木リツコ。しかし、“女”としての判断を下したカスパーの否定により失敗に終わる……。

仮設ケージ

米国第1支部より輸送されたEVA3号機を保留していたケージ。起動実験のために稼働の地下にある第2実験場に設けられた。実験直後、第13使徒バルディールに寄生された3号機は実験スタッフの制御を離れて起動、その結果、仮設ケージもろとも実験場は大爆発を起こしてしまう。



事故などの被害を最小限に留めるため、仮設ケージは無人であり、実験の前編は地上の中央監視指揮車内で行なわれた。

活動限界

EVAの内蔵電源の限界時間を示す言葉。外部からの電力供給によって活動するEVAが、何らかの理由で内蔵電源を用いている場合、残りの活動可能時間を「活動限界」として表示される仕組みとなっている。また、内蔵電源を使い果たしてEVAが沈黙した場合も「活動限界」と表示。



EVAが内蔵電源を頼っている場合、残り活動時間を表示。なお、オペレーターも「活動限界まであと何分」と呼称する。

活動停止信号

発令所から発信されるEVAを停止させるための信号。外部からEVAの活動を停止するための手段のひとつ。エントリープラグを強制射出させるための信号であり、受信するシート・エジクシオンが作動。その結果EVAの活動は停止するという仕組みである。第拾八話において、第13使徒バルディールに寄生されたEVA3号機に対して発信されるが、停止信号及びプラグ推出コードは認識されなかった。



彼娘に寄生されたため2号機への活動停止信号は功を奏さない。そのため、操縦者を乗せたまま同機は使徒と識別され、機体対象と判断されてしまう。

葛城調査隊

スーパーソノイド理論を提唱した葛城博士を筆頭に12調査隊の選考。ゼーレが後援してあり、ゲルハムのメンバーによって構成されていたものと思われる。その中には碇ゲンドウ、ユフ夫妻も名を連ねていた。調査隊は南極に2機の巨人を発見し、それをワグダムと呼称して多様な実験を行なう。その結果、巨人を目撃させてしまい、セカンドインパクトを引き起こす。調査隊は全滅。生存者は葛城博士の娘ミサトひとりであった。



「UN UNDERGROUND BASE」と記録映像にあり、国連の正式な調査団だったことが分かる。研究者の会話から、葛城博士のS理論に懐疑的な学者も中にはいたようだ。

葛城博士

スーパーソノイド理論の提唱者。ゲルハムに所属。無限のエネルギー機関という理論は突発すぎて、発表当時の学会では受け入れられなかったようだ。しかし、その理論を動力源とする巨人が南極にて発見され、氏の学説は証明される。葛城ミサトの父であり、セカンドインパクトの際に彼女の身代わりとなって死亡した。研究に没頭する余り家庭を顧みない人物であり、そのため妻とは別れている。他人からは繊細な人間だと称されていたようだが、「現実から逃げている心の弱い子供」だとミサトは評していた。しかし、セカンドインパクト時に身を挺して壁を守ったことで、最後は父親としての姿をミサトの心に焼き付けた。この世を去る。



自らの理想をみずには壁を駆け、壁の方でゼーレを導いた葛城博士。その種とセカンドインパクトの衝撃波に飲み込まれる。

葛城ミサト

NERV本部総務作戦部作戦局第一課所属。階級は一尉（のちに三佐へ昇進）で、直属の部下は日向マコト。使徒に対する作戦の立案と戦術指揮を担い、大胆な作戦を紙一筆で成功させている。また、EVA操縦者の碓氷シンジと惣流・アスカ・ラングレーの保護者役を買って出ており、姉であり母という一面も持つ。父はスーパーソノイド理論を提唱した葛城博士。セカンドインパクト発生の際、身を挺した父によって命を救われたミサトは、葛城調査隊唯一の生存者となる。救助後は数年のあいだ失語症となるが、回復後は第2東京大学へ進学。大学で出会った赤木リツコとは親友の関係が続く。その後は父のいた組織ゲイルンに所属し、現在のNERVへと至る。ビールをこよなく愛し、主食はコンビニのレトルトという私生活はスボアでガツンな人物だが、陽気で社交的な大人の女性である。幼少時のミサトは、家庭を顧みなかった父を憎む一方で、嫌われないように「[面白い] だけで必要があった。その生き方は大人になった今でも変わりず、『キレイな自分』に本心で過ごす日々で疲れ、『汚れない』と加持リョウジに心を吐露、弱面を見せる。学生時代に加持と同様生活を続けていたミサトだが、彼に父の面影を見ていた自分に恐れ、自ら別離を切り出す。しかし、NERV本部に出現した加持とものに再会することとなる。憎んでいたはずの父に命を救われたため、気持ちの行き場がなくなったミサトは、仇として使徒を倒すことで父の呪縛から逃れようとする。その私欲のためにNERVに所属したミサトは、初号機の度重なる暴走を見るにつれ、組織に疑問を持ち始める。そして加持の違った情報を頼りに、セカンドインパクトの真実に行き着く。戦時自衛隊襲撃時、逃げ遅れた碓氷シンジを初号機へ乗ける際に銃撃で重傷を負うも、その傷を隠し、無気力になったシンジを叱咤して初号機のもとへ送り出す。その後、自らの血だまりの中へと崩れ落ちるのだった。



憎んでいたはずの父に命を救われ、自分の気持ちが変わらなくなったミサト。使徒を倒すことで父の呪縛から逃れようとするが、好きになった男は父によく似た加持であった。

カノン

「3つのヴァイオリンと通奏低音のためのカノンとジークニ長調」(Kanon und Gigue in D-Dur für drei Violinen und Basso Continuo)の第1曲。ヨハン・バハの作曲で、「バハベルベルのカノン」として親しまれている。「カノン」は日本語だと「道走曲」。旧劇場版「DEATH」において4人の生徒が演奏した。時は第17使徒タプリス殲滅の18ヶ月前。場所は第2新東京市の第三中学校講堂で行われた弦楽四重奏の練習である。碓氷シンジはチェロ、隠岐なな女と連れ渡ってきた少年はヴァイオリン、寡黙な少女はヴィオラを担当。なお、室内楽の中でも弦楽四重奏は人が多調してひとつの音楽を表現する度合いが強いという。



ヴィオラの調律を行なう寡黙な少女。3人はひとりずつ律法を清ませてゆく。練習の定刻直前に最後のひとりが到着し、4人でカノン演奏する。

カバラ

ユダヤ教の神秘思想。人間が大きい存在へと至るための霊的な向上と魂の成長を学び、最終的に神との合一を目指す。碓氷シンジの執務室の一面に描かれているものが、カバラにある数知の集合点、生命の樹「セフィロト」である。そのほか、EVAシリーズが空機を開放してアンチA.T.フィールドを発生させた際も空中に描かれている。なお、「カバラ」とはヘブライ語で「伝統されるもの」「受け取ったもの」を意味する。



執務室に描かれたセフィロト。人類補完計画を目指すNERVにとって、神に近づくことするカバラの思想は密接な関係があるのだから。

カプセル

凍結レイが常用しているカプセル薬。そのほか瓶入りの錠剤も服用している。これら大量の薬は、造られた肉体を維持するために必要な措置のひとつだと考えられる。なお、タミナルドグマにある凍液が生まれたという部屋にも似たカプセル薬があったほか、大量の薬品が置いてあった。



養護から、1日2回食後に服用していることがわかる。なお、凍液はビーカーをコピー代わりに使っている様子。

カプセル

NERV本部内中央病院の緊急処置室にあるICU (Intensive Care Unit) カプセル。集中治療が可能であり、モニターされている生命活動値がセーフティラインを越えて患者の意識が戻ると、自動的に扉が開く。



第5使徒ラミルの加粒子箱を溶けて意識を失った碓氷シンジが取り返された。

カプセル

葛城ミサトが南極から脱出する際に使用した脱出用カプセル。ひりり用で、セカンドインパクトの衝撃吸収に耐えた頑丈な造り。カプセルの横にあるレバーを引くと、正面のフタが上下に開く。



カプセル表面にある「EMERGENCY ONLY」は「非常用、緊急用」の意味が常用される。

カプセル

加持リョウジから葛城ミサトが受け取ったカプセル。情事の最中、8年ぶりのプレゼンタだといって加持がミサトへ贈る。中にはマイクロチップが入っており、加持が調べ上げたNERV等々の情報が記録されていた模様。情報にはターミナルドグマに続くバースコードなどもあったように、ミサトは自分のバースでもいとロックの解除ができないうちに書き換えていた。



凍結の危険が低いラブホテルでミサトに渡し、マイクロチップ入りカプセル。

ガフの部屋

ユダヤの伝承にある魂の集まる部屋。生まれ出る全ての子供の魂が集まっており、この部屋で魂を授かって人間はこの世に誕生することになる。伝承によれば、産婦魂を見ることができ、そのさえずりは子供が生まれる前触れとされる。しかし、部屋の魂が尽きると魂を持たない子供が生まれ、さえずりが絶えてしまう。それは世界の破滅の前兆だと伝えられる。リリスからのアンチA.T.フィールドが実体化した際

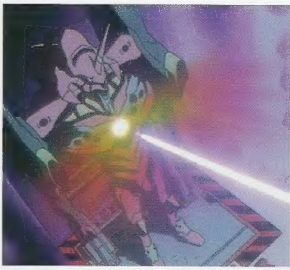
に、冬月コウゾウは、「世界の始まりと終焉の扉」と称した。それはヒトがA.T.フィールドを失ってL.C.L.へと還元され、人類のガフの部屋である「人類の生命の源たるリリスの卵」へと運ぶことを意味するのだろう。また、セカンドインパクトが起こる直前、その被害を抑える手段として「ガンダの扉が開くと同時に熱滅却処理を開始」している。これは生命の源であるアダムの扉=使徒のガフの部屋に対して行なわれたとも考えられる。その結果、使徒が活動を始めるために14年もの歳月を要したのかもしれない。



綾波レイの魂が宿った容れ物はひとりだけで、他の肉体のガフの部屋は空っぽであった。ひとりにしほ魂は生かめなかったという。

加粒子砲

第5使徒ラミールの攻撃手段。荷電粒子を円筒部で加速、収束することで射出される強力な熱エネルギー兵器と見られる。一定距離の外敵に対して自動で照射されるようだ。



分子を加熱して融解させる加粒子砲。数秒の照射でEVA初号機の胸部第3装甲まで融解した。

カレー

レトルトをベースに創られた葛城ミサト特製カレー。碓辛じと食事と呼ばれていた赤木リツコは、一口で食事を断念。パンペムも一口で倒れるほどの強烈な味らしい。なお、彼女はこれをカップラーメンに注ぎ、カレーラーメンにして食べていた。



レトルトを材料としながら、えも言われぬ味に変化したミサトの手術室におののくりツコ。

監査部

S機関を勝ち得たEVA初号機は、碓辛じの絶対命令で凍結。人類補完委員会の別命あるまで封印される。そのとき監査部の目によって初号機が拘束、封印された。なお、NERVでは監査部の目は主に内部へ向けられるようだ。



初号機のケージには「監査部」封印の印であるテープが貼られた。これら破られた場合、機体を動かしたことがわかってしまうように貼ってある。

感情素子

EVAもしくは操縦者の感情変動をモニターするための電子回路。能動的な機能を持たない受動素子と思われる。第拾八話において、EVA初号機の制御を碓辛じからダミーシステムへ切り替えた際に、感情素子の32.8%が不明でモニターが可能となる。システムが完全ではなかったためのトラブルだが、戦闘に支障はなかった。

キール・ローレンツ

人類補完委員会の議長であり、ゼーレの中心人物。碓辛じウオと古くから面識があるようで、裏死海文書にないシリオを演出する徳に對し裏切りを危惧していた。リリスのアンチA.T.フィールドによってL.C.L.と化したとき、キールは身体の半分以上を機械化していたことが判明する。



ハイパーによって表情を隠しているが、これは目を機械化しているためと思われる。なお、モリスの01がキール・ローレンツ。

擬似エントリー

実際のエントリー（プログラムの実行可能位置）に侵入者を近づけないようにするために展開する、擬似的なエントリー。第拾四話において、第11使徒イロウルの侵襲中にサブコンピュータが何者かにハッキングを受ける。その相手に防壁を解凍し、擬似エントリーを展開する青葉シエルと日向マコトだが、やすやすと突破されてゆく。その間に、遊探部

によって突き止めたハッキング相手は、自身に電子回路を構築したイロウルであった。

技術開発部第3課

NERV本部の部署のひとつ。技術局第3課とも称す。電磁光波火器を扱い、主にEVAの兵器開発を担当している。第六話において、戦略自衛隊つば技術研究本部より徴収した自走機電子砲をEVA専用改造機電子砲（ボジトロンスナイパーライフル）へと改造した。



葛城ミサトの要請に従い、短時間で使用に耐える改造を施す技術局。

技術開発部第2課

NERV本部の部署のひとつ。技術局2課とも称す。EVAの防衛システム等を担当していると考えられる。第六話において、第5使徒ラミールの加粒子砲に耐えようとする手段を考案。SSTOの底部を改修し、加粒子砲の照射に17秒間耐えうる。EVA専用耐熱光波防弾兵器（急進仕様）を仕上けた。

技術局第1課

NERV本部の部署のひとつ。技術局1課とも称す。EVAやMAGIの研究、開発、実験全般を担当していると考えられる。総責任者は赤木リツコ。伊吹マヤも所属している。

奇跡の価値は

第拾貳話のサブタイトル。英文タイトルは「She said, "Don't make others suffer for your personal hatred."」。訳は「あなたの個人的な憎しみでのいて他人を苦しめるのはやめなさい」と彼女が言った」となる。

機体回収班

エントリープラグ回収班。大破など、自力で動けないEVAの機体や射出されたエントリープラグを回収する部隊。汚染などあらゆる事態を想定し、防護服を着用して任に当たる。



EVAの詳細は最新号機となっているので、回収するパーツについては様々な準備が数えられること。

E

エクストラシート
xtra Sheet

機体相互交換実験

パーソナルパターンが酷似しているEVA零号機と初号機。その操縦者同士を入れ替えてのシンクロ実験。シンジ、レイと共にエントリープラグ内に相手の匂いを感じている。初号機と綾波レイの組み合わせは、零号機とのシンクロ率はほぼ変わらない数値が検出されて問題なく終了。零号機と碓辛ジンの組み合わせも第2次接続までは問題なく終了した。その結果を見た赤木リツコは、ダミーシステムの計画を実行に移せると確証を得る。しかし、第3次接続のハーモニクスレベル10によって零号機から精神汚染が開始。制御不能となり、電源切れでようやく活動を停止する。その後、零号機は制御室に向けて降りかけており、零号機が降りたかったのは自分だと、リツコは確信していた。



第3次接続後、零号機から意識が始まる。そのとき、レイのイメージが意識のごくシンジの頭の中に入れ込まれた。

機体運動試験

定期的に行なわれる機体とのシンクロ試験。惣流・アスカ・ラングレーと式号機のハーモニクスは正常値を記録。第7回の機体運動試験は問題なく終了する。なお、第1回の機体相互交換実験と並行して行なわれた。



機体運動試験のとき、アスカと式号機は互換性がなく、機体の替えがきかないことを電脳ミサトは知る。

起動

EVAを操縦可能な状態にすること。エントリープラグがEVA本体に挿入されると起動準備は完了。そこから起動手順を逐次起動可能となる。絶対境界線を突破し、ハーモニクスの正常値が確認されれば起動は成功。



起動には例外もあり、暴走時のEVA初号機は、本来起動し不得い状態から再起動を実現した。

起動確率

EVAの起動確率。第9話において、赤木リツコが0.00000009%だと語る。09システムを参照。

起動指数

EVAを起動するために必要最低限のシンクロ率。度重なる敗北に惣流・アスカ・ラングレーのプライドはボロボロになる。その精神状態を反映して、「起動指数ギリギリ」のシンクログラフマイナス12.8を記録してしまう。

起動実験

EVAの起動実験。NERV本部第2実験棟で行なわれた零号機初の起動実験は失敗。制御不能に陥り、専属操縦者の綾波レイが重傷を負う。その後、零号機は特殊ペーカライトにより凍結されていたが、2度目の起動実験は成功に終わる。

起動手順

EVAを起動するための手順。起動後は活動可能だが、アンビカル・ブリッジに固定されているため、拘束を解除する必要がある。その後は目的地へと射出される。リフトオフ後はじめて自由に活動できるようになる。順番は次の通り。冷却水排出→停止信号フラグ排出終了→エントリープラグ挿入→背筋温湯システム解放→接続準備→エントリープラグ固定→第1次接続開始→エントリープラグ内L.C.L.注水→主電源接続→回路路力伝達→第2次接続開始→シナプス挿入、結合開始→パルス送信→A1神経接続→全回路正常→初期コンタクト問題なし→絶対境界線突破→双方向回路開く→ハーモニクス正常値→起動完了→発進準備→第1ロックボルト解除→アンビカルブリッジ移動開始→第2ロックボルト解除→第1拘束具除去→第2拘束具除去→1~15番までの安全装置解除→内部電源充電完了→外部電源接続→射出口へ移動→道路クリア、オールグリーン→発進準備完了→発進→最終安全装置解除→リフトオフ。

希望

日本重化学工業共同体の開発した使徒迎撃用無人ロボット、J.A. (ジエトアローン) の全プログラムを消去するためのパスワード。日本政府の最高機密に属するものでもあり、パスワードの開示には、内務省長官など日本政府高官の許可や書面による事務手続きが必要である。第七話において、J.A.開発者の時田シンウが、暴走したJ.A.を停止させようと奮起した電脳ミサトに独断で教えた。

PASSWORD

希望

時田から教えられたパスワード「希望」を入力するミサトだが、パスワードは何者かにより変更されていた。

キャッチャー

浅間山火口内で発見された邪徒の第8使徒ザンダルフォン捕獲のため用意された特殊兵器。耐熱耐圧対核の局地戦用D型装置を身に付けたEVA式号機が火口内で使用した。キャッチャーの両端を展開させ、そこから発生する箱型の電磁場で対象を包み込み、捕獲する。



高温高压の火口内でも使える電磁網。無事に捕獲した使徒だったが、突然に弱体化はじめる。

旧伊東沖遭遺戦

セカンドインパクトの影響で水没した静岡県伊東市沖。そこで起きた対使徒戦の通称で、国連軍太平洋艦隊及び輸送中のEVA式号機と、第6使徒ガギエルとの遭遺戦を指す。第拾四話において、人類補完委員会特別召集会で詳細が報告されている。この戦いで国連海軍は甚大な被害を受け、全艦隊の1/3を失ってしまったが、NERVは式号機の海上、海中における運用や戦闘データ、シンクロ率の更新など、いくつかの貴重なデータを得ることができた。



想定していなかった海上、海中での戦闘データのほか、ふたりに降りたEVA運用も貴重なデータといえる。

99.89%

使徒とヒトの固有波長パターン的一致を示す数字。EVA初号機が撃破した第4使徒シラムシエルの残骸を分析した結果、構成要素の違いはあっても、信号の配置と座標は人間のものと同様している事が判明した。